

平成 27 年第 17 回

札幌市教育委員会会議録

平成27年第17回教育委員会会議

1 日 時 平成27年7月29日（水） 13時30分～18時30分

2 場 所 S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

| | | |
|------------------------|-----|-----|
| 教 育 長 | 長 岡 | 豊 彦 |
| 委 員 | 山 中 | 善 夫 |
| 委 員 | 臼 井 | 博 |
| 委 員 | 池 田 | 光 司 |
| 委 員 | 池 田 | 官 司 |
| 委 員 | 阿 部 | 夕 子 |
| 教育次長 | 大 友 | 裕 之 |
| 生涯学習部長 | 長谷川 | 雅 英 |
| 学校教育部長 | 引 地 | 秀 美 |
| 教育推進課長 | 仙 波 | 晴 彦 |
| 学事係長 | 穴 田 | 卓 也 |
| 学事係員 | 大 西 | 俊 之 |
| 教育課程担当課長 | 長谷川 | 正 人 |
| 義務教育担当係長 | 佐 藤 | 圭 一 |
| 指導主事 | 三 浦 | 敦 司 |
| 中学校部会 | | |
| 国語小委員会委員長 | 斎 藤 | 昇 一 |
| 教科用図書選定審議会委員（企画担当係長） | 横 道 | 幸 紀 |
| 保健体育小委員会委員長 | 石 岡 | 直 樹 |
| 教科用図書選定審議会委員（義務教育担当係長） | 大 井 | 一 雄 |
| 社会小委員会委員長 | 小 池 | 千 秋 |
| 教科用図書選定審議会委員（企画担当係長） | 工 藤 | 真 嗣 |
| 教科用図書選定審議会委員（義務教育担当係長） | 伊 達 | 峰 史 |
| 技術・家庭小委員会委員長 | 尾 崎 | 基 |
| 教科用図書選定審議会委員（研修担当係長） | 岩 渕 | 浩 憲 |
| 総務課長 | 竹 村 | 真 一 |
| 庶務係長 | 井 上 | 達 雄 |
| 書 記 | 岡 部 | 歌 織 |

4 傍聴者 29名

5 議 題

協議第1号 平成28年度使用教科用図書を選定について

【開 会】

○長岡教育長 これより、平成27年第17回教育委員会会議を開会します。
会議録の署名は、臼井博委員と池田官司委員にお願いします。

【議 事】

◎協議第1号 平成28年度使用教科用図書の選定について

○長岡教育長 協議第1号について、初めに、教科用図書採択に係るこれまでの経過と今後の流れ等について、事務局から説明をお願いします。

○学校教育部長 教科書採択に係るこれまでの経緯と今後の流れ等についてご説明します。

まず、札幌市教科用図書選定審議会における調査研究及び審議の経過についてご説明します。

本年度は、中学校用、高等学校用、中等教育学校用及び特別支援教育用教科用図書の採択替えを実施することから、去る5月22日（金）に開催された平成27年度札幌市教科用図書選定審議会第1回総会において、平成28年度に使用する中学校用、高等学校用、中等教育学校用及び特別支援教育用教科用図書の調査研究について諮問し、7月15日（水）に審議会委員長から調査研究報告書（答申）が教育長に手交されました。

この間、審議会の中学校部会、中等教育学校前期課程部会においては1回の部会と7回の小委員会を、高等学校部会と中等教育学校後期課程部会においては3回の部会を、特別支援教育部会においては4回の部会をそれぞれ開催し、5月15日（金）開催の第8回教育委員会会議においてご決定いただいた調査研究の基本方針に基づいて調査研究が進められてきました。

次に、審議会における調査研究の対象とした図書についてご説明します。

中学校及び中等教育学校前期課程の教科用図書については、対象である全ての教科用図書についての調査研究をしました。お手元にある資料の調査研究報告書（答申）には、本日審議する予定の種目ごとに調査研究の対象となった全ての教科書についての調査研究結果が取りまとめられています。

次に、高等学校用及び中等教育学校後期課程用の教科用図書についてです。

高等学校用等の教科用図書は、学校の実態、教育課程や学科の特色、生徒の特性などを十分に考慮して、各高等学校等の教育課程、学科ごとに採択することとなっています。このため、各高等学校等では、それぞれ、校長を委員長とする教科書選定委員会を設置し、自らの学校で使用するものとして適切と考えた教科用図書を選んでいきます。また、山の手養護学校高等部については、高等学校に準じた教育課程を編成していることから、高等学校と同様の扱いとしています。

審議会においては、主として、これらの各高等学校等が使用を希望する文部科学省検定済み教科用図書を調査研究の対象としています。

なお、各学校に設置している教科書選定委員会は、使用希望教科用図書を選

定する組織として、その位置付けを明確にし、選定の透明性を一層高める目的で、全ての高等学校及び中等教育学校、山の手養護学校高等部に設置しているものです。

次に、特別支援教育用教科用図書についてです。

特別支援教育用教科用図書については、障がいの種類や程度、発達の段階に応じて、児童生徒がもっている能力を最大限に発揮し、社会参加、自立を果たすことができるよう、文部科学省著作の知的障害特別支援学校用小学部・中学部教科用図書及び道教委の採択参考資料の対象となっている一般図書並びに教科用図書選定審議会委員が推薦した教科の主たる教材として教育目標の達成上適切と認められる一般図書を調査研究の対象としています。

次に、今後の教科書採択の流れについてご説明します。

本日と明後日31日（金）の2回の会議では、平成28年度から使用する中学校用、中等教育学校前期課程用並びに平成28年度に使用する高等学校用、中等教育学校後期課程用及び特別支援教育用教科用図書の採択に向け、札幌市教科用図書選定審議会の調査研究報告書（答申）の概要について、審議会中学校部会の各小委員会委員長、高等学校部会及び特別支援教育部会の各部長から説明していただきます。

教育委員の皆様方には、適宜、質問や意見聴取を行っていただいた上で、調査研究報告書（答申）、教科書見本、市民意見や学校意見などを参考にご審議いただくこととなります。

その上で、8月7日（金）の会議において、中学校用と中等教育学校前期課程用につきましては種目ごとに、札幌市で使用するに最も適切な教科用図書1種類を決定していただくこととなります。高等学校用と中等教育学校後期課程用については各学校の教育課程の実施に最も適切な教科書を、特別支援教育用については本市の特別支援教育において児童生徒の状況に応じて使用するのに適切な教科書を決定していただくこととなります。

平成28年度使用教科用図書については、3日間のご審議の結果を議案としてまとめ、8月11日（火）の教育委員会会議において、継続して採択する小学校用教科用図書を含めて議決していただく運びとなっています。

私からの説明は、以上です。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○長岡教育長 ただいまの事務局からの説明に対して、ご質問はございますか。特によろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 それでは、ただいま事務局説明があったとおり、教科書採択に向けては、本日を含めて4回の教育委員会会議を開催して審議することとなります。

4回の教育委員会会議のうち、選定のための審議は、本日と明後日の31日(金)及び8月7日(金)の計3回で行い、その結果を受けて、8月11日(火)の4回目で採択する運びになります。

前半3回の選定のための審議の流れについてですが、まず、第1段階として、選定審議会中学校部会、中等教育学校前期課程部会の各小委員会委員長から答申に関する説明をいただき、それについての質疑応答をするとともに、小委員会委員長から意見聴取を行った上で、教育委員会会議として種目ごとに選定の候補とする教科書を何冊か、この場合、2冊ないし3冊程度に絞ることとします。

1回目の本日は、国語、保健体育、社会、技術・家庭の順に4つの小委員会を対象とし、2回目の明後日は、数学、音楽、美術、理科、外国語の順に、残りの5つの小委員会を対象とすることとしたいと思います。

そして、3回目の8月7日(金)は、第2段階として、第1段階で選定の候補とした各種目の教科書の中から、最終的に種目ごと1者を選定します。

また、高等学校部会、中等教育学校後期課程部会及び特別支援教育部会については、選定の候補が挙げられていますので、明後日の31日(金)の教育委員会会議において調査研究報告書(答申)の説明を受けた上で、8月7日(金)に審議することとしたいと思います。

このような流れでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、このような流れで小委員会ごとに審議を進めてまいります。

そこでまず、各種目の審議に入る前に、教科書採択の任を負っている私たちは、札幌市の教科書採択の公正・中立性をしっかりと確保しなければなりません。

私から委員の皆さんに確認させていただきたいことがあります。

特定の組織や団体あるいは会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 ただいま、皆様方から影響力の行使や圧力等はなかったとの回答をいただきましたので、私ども6人による協議は、教科書採択の公正・中立性を確保し得るものであると判断します。

では、早速、審議に入ります。

まず、国語と書写から始めます。最初に、国語です。

その前に、私から小委員会委員長に確認させていただきたいことがあります。

特定の組織や団体あるいは会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

○国語小委員会委員長 ありません。

○長岡教育長 それでは、国語小委員会の委員長、国語の調査研究報告の説明をお願いします。

○国語小委員会委員長 今回、調査研究の対象となったのは、「東京書籍」「学校図書」「三省堂」「教育出版」「光村図書出版」の5者5種、合計15点の教科書です。

国語小委員会において、教育委員会が定めた平成28年度から使用する中学校用教科用図書の調査研究の基本方針に基づき、公正・中立な立場から具体的な調査研究を進めてまいりましたので、ご報告します。

まず、調査研究の観点Aである北海道教育委員会が作成した採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明します。

採択参考資料の国語1ページをご覧ください。

様式1にある国語の目標等についてですが、国語科では、学習指導要領において、国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てることが目標とされています。

次に、国語2ページの様式2から国語26ページの様式4の別記までについてです。

この中では、様式2のうちの観点「使用上の配慮等」の第1項目「学習意欲を高める工夫」と第3項目「使用上の便宜」について、各教科書の特長が見られました。

まず、1つ目の学習意欲を高める工夫の項目についてです。

各者とも、単元ごとあるいは巻末に多様な学習活動を示すなどして、生徒の学習意欲を高める工夫がされています。

「光村図書出版」1年の178ページをご覧ください。

ここに「生活に生かす」とありますが、学習した内容を授業や学級会での話し合い、あるいは、委員会や部活動などでの会議に生かすとなっています。

ほかにも、「他教科に生かす、他領域に生かす」という振り返りのコーナーが各所に設けられており、学習者自らが身に付けた言語能力、あるいは、他教科や他領域などの場面で生かされることを意識し、次の学習への具体的な見通しをもつことで、意欲をもって学習に取り組むことが可能となっている点に特長が見られました。

次に、「使用上の便宜」についてですが、各者とも、巻頭で1年間の学習の見通しを示したり巻末に学習に有効な資料を提供したりするなど、個に応じた指導に配慮した内容となっています。

この中で特長的なものとして、「東京書籍」では、全学年の巻末に練習問題を掲載しており、家庭学習にも役立てられるようになっています。

次に、調査研究の観点B「札幌市として設定する調査研究項目」についてご説明をします。

答申の国語2ページをご覧ください。

国語科では、調査研究項目として、計8項目について調査研究を実施しましたが、そのうち、1の(1)読書活動の取扱い、2の(3)学ぶ意欲を高める学習活動の取扱いについては、各教科書の特長が見られましたので、ご説明します。

まず、1の(1)読書活動の取扱いについてです。国語3ページをご覧ください。

ここでは、学校図書館を活用するなど、多様な読書活動を通して、自分の読書活動を振り返り、本の選び方や読み方の工夫について考えることが可能な内容となっているかという観点で調査研究を行いました。

「東京書籍」は、多様な読書活動を通して、図書館の利用を図り、読書体験を共有する活動が可能な内容となっていました。

また、「東京書籍」の3年の285ページをご覧ください。

この「読書生活を振り返ろう」では、生徒が自分の読書傾向を把握することによって今後の読書の仕方を考える活動が可能な内容となっていました。

また、「学校図書」は、本の選び方や読み方の工夫について考えることが可能な内容となっていました。

「三省堂」は、本の帯、ポップづくりやビブリオバトル等、多様な読書活動に取り組むことが可能な内容となっていました。

「教育出版」は、学年ごとに帯やポップづくり等のテーマを設け、読書活動を豊かにする活動が可能な内容となっていました。

加えて、「教育出版」の3年の344ページをご覧ください。

ここでは、既習の教材、島崎藤村の「初恋」という詩ですが、この教材について図書館でさらに詳しく調べる学習活動を示すことで、読書の幅を広げる活動が可能な内容となっていました。

続いて、「光村図書出版」は、中学校の学習への導入期である第1学年において、学校図書館の利用方法について学習し、学校図書館に興味を持てるよう工夫がされていました。また、他の学年においても、学校図書館を活用し、本の選び方の工夫について考えるなど、多様な読書活動が可能な内容となっていました。

「光村図書出版」の1年の90ページをご覧ください。

こちらの「読書案内」では、本の題名の上に読み終えたことを示す印が付けられるようになっており、読書記録を用いながら生徒自らの読書生活を振り返ることが可能な内容となっていました。

最後に、2の(3)学ぶ意欲を高める学習活動の取扱いについてご説明します。国語7ページをご覧ください。

ここでは、体験的な活動や言語活動、課題解決的な学習活動を通して、生徒が意欲的に学習活動に取り組むことが可能な内容となっているかを観点として調査研究を行いました。

各教科書とも、学習の手引などで生徒が自らの学びを振り返ることができるような工夫をするとともに、さらに発展的な課題を示すことで、意欲的に学習活動に取り組むことが可能な内容となっていました。中でも「東京書籍」と「光村図書出版」に特長が見られましたので、ご説明します。

まず、「東京書籍」の1年の巻頭の折り込みをご覧ください。

各学年の巻頭にイラストを交えた折り込みの学習の見取り図を示し、生徒が1年間の見通しをもつことが可能な内容となっていました。

「光村図書出版」では、「話すこと・聞くこと・書くこと」の教材の後に、「次につなげよう」というコーナーを各学年で設け、学習の振り返りと実生活に生かす視点が示されていました。

また、「光村図書出版」の2年の51ページをご覧ください。

ここでは、次のページである52ページからの本教材の前に練習教材が設けられており、習得と活用という学びのステップが明確に位置付けられることで生徒の学ぶ意欲を高めることが可能な内容となっていました。

具体的にスイカを例に出し、その切り方、栽培の仕方、自分とのエピソード、さらにはメロンとの違い等について説明を加えています。

以上、国語についてご説明いたしました。

○長岡教育長 ただいま、小委員会から報告がありました。

これまで皆様が各教科書をご覧になって、それから、ただいまの説明を受けて、質問等がありましたら、お願いします。いかがでしょうか。

○**臼井委員** 委員長の報告に、学習意欲を高める工夫の項目として、巻末の資料など、2者に特色があるという話がありました。国語の場合は、総合的な学習の時間、あるいは、理科の学習でのグラフの読み取り、社会科の学習での資料の読み取り等、他教科とのつながりが非常に重要になると思います。

その意味では、どの教科書もそうですが、他教科へのつながりを考える必要があるかと思います。読書というのは個人差もとても大きいので、個人差に応じて興味をもっと広げられるようにする工夫がされたところについて、もう少し詳しくお願いできますでしょうか。

○**横道企画担当係長** 私から、巻末資料等でのほかの教科へのつながりという点について説明します。まず、「東京書籍」2年の182ページです。

これは、読書活動に関わる読書案内のページですが、例えば、科学や歴史へのつながりを持たせるような図書を紹介していることで、他の教科へのつながりを持たせることが可能な内容となっています。

○**臼井委員** 最近、4コマ漫画等のいわゆる非連続型のテキストの読みは俳句や和歌などの詠みともある意味ではつながる面があって、大事にされていると思うのですが、そういうものを扱っているもので、特色のあるものはありますか。

○**横道企画担当係長** 「教育出版」の2年の188ページをご覧ください。

これは漫画ですが、非連続型テキストとの関わりになるかと思います。つまり、4コマ漫画を読んで自分の課題をつくるという学習活動につなげているもので、そうしたテキストを活用した内容となっています。

○**池田（官）委員** 読書関連のことについてです。

読書というと、私も本をただ読むことと思いがちですが、活動という言葉がつき、読書活動という観点が非常に大事なのだということがわかってきました。

読書活動も多彩だとは思いますが、特に、本を読んで、その感想や内容をお互いに伝え合うということが非常に大事なことの1つとしてあると思います。

そういった点から、読書活動の中で特にお互いに伝え合うということについて、各者で特長はありましたか。

○国語小委員会委員長 まず、「三省堂」ですが、第1学年では「読書郵便を楽しもう」、第2学年では本の帯、ポップづくりという学習活動が可能となっていて、広く読書について案内をしたり、他者へ伝えたりする活動が可能になっています。

また、「光村図書出版」ですが、第1学年では「読書紹介をしよう」というものがあり、これも自分がぜひ紹介したい読書について紹介する活動が可能になっています。また、第2学年では「読書案内をつくろう」という活動があり、第2学年のクラスの生徒が1年生35人の読書案内をつくろうということで、下級生に対して読書案内をするという活動が可能になっています。

第3学年の「読書生活をデザインしよう」というのは、未来の自分へということで、そういう意味では他者となるかと思いますが、未来の自分に対する読書案内をしようというもので、いずれも他者に対する読書案内が読書活動の中心となっています。

○山中委員 札幌市として設定する調査研究項目との関係で言えば、「地域のよさを実感し、豊かな想像力を育む学習活動の推進」ということになろうかと思いますが、札幌市の子どもたちにとってこういう点が特に親しみやすいということや、この教科書はこういう点で札幌市の子どもたちにとって非常によいのではないかなど、そのような特長はいかがでしょうか。

○横道企画担当係長 「東京書籍」の2年の26ページをご覧ください。

この教材では、短歌を取り上げています。短歌は、五七五・七七ですが、単に五七五・七七の言葉の配列ではなく、リズムを重視しています。五七五・七七のリズムに注目しながら、子どもたちが短歌に親しみやすくなるような教材の内容となっています。

○山中委員 先ほど言いました「地域のよさを実感し、豊かな想像力を育む学習活動の推進」とは直接つながっていないように思います。

○横道企画担当係長 北海道あるいは札幌に関わる教材については、採択参考資料にも資料がありますが、実は、今回の教科書については、札幌あるいは北海道が舞台になっているような教材はあまりありません。短歌で言うと、北海道にゆかりの深い歌人で石川啄木があげられていますが、例えば、北海道の冬や環境、風土を知るといような内容の説明文、あるいは、文学的教材については、今回、どこも大きく取り上げてはいないという研究結果になっています。

○池田（光）委員 「光村図書出版」の2年生の51ページに、説明の仕方を工夫するという練習問題がありましたが、これは以前に調査したときにも非常によいと思いました。国語に興味をもっていく、それから、国語を有効に活用できるという意味では、国語に親しめる資料ではないかと思います。ただ、これに匹敵するようなものがほかの書籍ではあまり見当たりませんでした。見落としがあると思うので、もしそういうものがあれば、お示してください。あるいは、国語に興味をもつ工夫をしているという点でもよいです。

○横道企画担当係長 「光村図書出版」の2年のこのページについては、システムの学習の課程が非常によく示されている内容、つくりになっていると思います。

本教材については、プレゼンテーションということで、「話す・聞く」の内容です。ただ、練習ということで、書くという活動を一旦取り上げて、練習をした上で、それをもとに、話す・聞くという学習活動を展開するという流れになっていて、このように学習課程が非常に明確になっているのが「光村図書出版」の特長でもあると、小委員会の検討結果ではまとめています。

○池田（光）委員 ほかの書籍では、国語に興味を持たせられる、国語の成果を生かせるようなページあるいは項目というのはあるのでしょうか。

○横道企画担当係長 教材ごとの振り返りのページを見ますと、教材で学んだことをどのように生かすかということが触れられています。

例えば、「学校図書」の1年の20ページです。

「学びの窓」ということで、「字のない葉書」という教材を学習した後、読む前に読み深めるという学習課程を振り返りながら取り組むことができます。

また、実際には下の段の方に空欄が設けられていて、自分で答えを考えながら書き込むという学習活動も可能になっています。

これは、各者でいろいろな工夫がされているところですが、「学校図書」については、このような振り返りや学習課程が示されているという工夫があります。

○阿部委員 読書活動の取扱いのところです。

各者で本の紹介をするコーナーが見られるのですが、カテゴリー別に分かれていると、子どもたちにとっても非常に見やすいと思ったのですが、その中でも特に振り返りがしやすかったり選びやすかったりするなど、その辺りで各者の特長的な部分がありましたらご紹介いただきたいと思います。

○横道企画担当係長 例えば「光村図書出版」であれば、読書記録をつくることができ、チェックをつけながら読書に親しむことができるページがあります。

また、「東京書籍」の2年生の86ページの上の方にある「読み比べよう」、それから、次のページの「読み広げよう」ということで、読書の目的や、その読書が次にどのようなにつながるか、あるいは、読み比べのような読書の活動について提示されているというような読書案内の工夫がされているところがあります。

○阿部委員 「光村図書出版」の2年の86ページの見開きのところを見ているのですが、「本の世界を広げよう」というタイトルの中で、3つにカテゴリー分けがされています。例えば、最初は「戦争・平和」、次が「環境」「文化・生き方」となっていますが、カテゴリーとしてはいかがですか。

○横道企画担当係長 これは、本教材との関わりもあるかと思います。つまり、本教材に関わっている内容で発展的に読書につなげるというカテゴリー分けだと思っていただけるとよいかと思います。

○阿部委員 関連されたカテゴリー分けになっているということですね。

○池田（光）委員 国語に親しむという点では、短編の文章が充実していると、その短編に基づいて意見交換をする場やそういう時間もつくりやすく、国語に対する興味も深まっていくのではないかと思います。ほかのものは結構長い文章だったりするので、読み込む時間も考えてみると、短編の価値は随分あるのではないかと思います。短編で特色のある教科書はあるでしょうか。

○横道企画担当係長 教材そのものの価値について、今回の調査研究では項目として挙げていません。どの教科書も、学習指導要領にのっとって様々な学習活動が可能となるような教材として、文学的文章や説明的文章を掲載しています。あとはどのような学習活動を行うかが現状で国語として求められている力だと考えていただけるとよいかと思います。

○国語小委員会委員長 補足いたします。

市民意見にもありましたが、特に、平和教材等で読み物として大変に心を打つ力のある教材もあるので、ぜひそういう教科書を取り上げていただきたいということも加味しながら表現しています。

具体的には、「東京書籍」「三省堂」「光村図書出版」に、平和教材が入っ

ているので、この教科書がよいと思いますという市民意見がありました。

○横道企画担当係長 「光村図書出版」の1年の106ページです。

米倉斉加年さんの「おとなになれなかった弟たちに……」という戦争が題材のものです。1ページにも空襲という言葉が見られますように、戦争がテーマになった教材となっています。

○山中委員 文学作品ではなく、いろいろな本を読んでいく中で、図やグラフを読み取る力を付けていくことが将来的に必要なことと思います。そういったものの扱いは各者でどのようになっていますか。

○横道企画担当係長 まず、「東京書籍」の1年の98ページをご覧ください。

「スズメは本当に減っているか」という教材です。

めくっていただき、100ページですが、このように数値があらわされている表があります。また、次のページには折れ線グラフとして最大の個体数が変遷しているものがあります。これは、本文の読みを深める、あるいは、本文と表やグラフの関連性を見るというようなつくりになっています。

それから、もう一つ、「光村図書出版」の1年の118ページをご覧ください。

これも説明的文章ですが、「シカの落穂拾い」という教材です。めくりますと、このように折れ線グラフや数値が挙げられていたり、分類を次のページで示したりしているようなつくりになっています。

特に、全国学力・学習状況調査でいうと、札幌市の子どもたちは、図表やグラフの活用には若干の課題が見られるところですので、このように教材の中で図表やグラフを使うことは非常に有効であると考えています。

○長岡教育長 時代が違うのかもしれませんが、私は国語が本の楽しみにつながった経験があります。当時は、例えば芥川龍之介や夏目漱石、井上靖など、教科書を通して、そういう世界に入って楽しい思いをしました。そういう面で、読書とのつながりで顕著に配慮がされているものはありますか。

○横道企画担当係長 各者とも教材の学習から読書につなげるようなことが可能な内容になっています。特に、長期間にわたって掲載されている教材があります。例えば、1年生であれば、「少年の日の思い出」、2年生であれば「走れメロス」、3年生であれば「故郷」、あるいは、最近では「握手」もあります。

それらがなぜ長期間にわたって選ばれているかについては、文書的な価値も

あるかと思えます。例えば、自分の親と同じような教材を習って、国語を通してそうした会話をすることもできるでしょう。ただ、国語としては、教材そのものを読み解いていくことも大事ですが、そこから自分自身が何を感じ取って、どのように表現していくか、あるいは、読んだ思いを適切な言葉で表現できるか、その辺りが求められている力かと思えます。

どの教材でも、どのような文章であっても、そのような学習活動は可能であると考えています。

○**国語小委員会委員長** 補足ですが、やはり、中学校に入って1年生になったときの図書へのいざない、導入が大事だと考えています。「光村図書出版」1年生の導入段階で学校図書館へ行ってみようということで、学校図書館へいざなうガイダンス、最初のオリエンテーションが行われることが可能な内容となっていますので、子どもたちが中学校に入った時点での図書館の使い方、利用方法について指導が可能な特長であると捉えています。

○**長岡教育長** 「光村図書出版」の1年で、資料に「坊っちゃん」が出てきていますね。これは、教科書に載せて、子どもたちにこの世界を知らせるのはおもしろいと思ったので質問しました。

ほかの教科書でも、生徒たちに興味を湧かせるよう、教材として扱っているものはあるのですか。

○**横道企画担当係長** 「坊っちゃん」については、同様に、東京書籍でも取り上げられています。例えば、文学史として重要な夏目漱石のような作家について触れることで、日本文学への扉も開くことが可能であると考えています。

これは夏目漱石に限りません。例えば、「高瀬舟」など、森鷗外の作品を取り上げているところもありますので、そういったところから発展させることは可能だと考えます。

○**長岡委員長** ほかにありませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○**長岡委員長** それでは、国語はこの辺りとします。

各委員の皆様からご質問がいろいろとありましたが、小委員会の意見として、調査研究の観点AとBがあります。

調査研究の観点Aの学習指導要領を踏まえた教科書採択参考資料から見た場

合、特長が顕著な教科書という観点からは、特長のある教科書とその理由、また、調査研究の観点Bの札幌として設定する研究項目において特長が顕著であった教科書とその理由について教えていただけますか。

○国語小委員会委員長 調査研究の観点Aに関して、特長が顕著な教科用図書については、「光村図書出版」と「東京書籍」の2者です。

理由としては、「光村図書出版」については、教材のまとめに「生活に生かす」、あるいは、「他教科に生かす」とあり、ご質問にあったように、幅広い視点からの学習活動が可能な内容となっており、学習意欲を高めるよう配慮されています。

また、「東京書籍」については、巻末に練習問題を設けている等、生徒の自学自習が可能な内容となっています。

そういうことからこの2者に特長があると考えています。

さらに、調査研究の観点Bに関しては、「光村図書出版」と「東京書籍」の2者と考えます。

理由としては、「光村図書出版」については、第1学年で、先ほどもご説明しましたが、学校図書館の活用について触れ、多様な読書活動を進めるための工夫が見られたこと、あるいは、教材の特性に応じた言語活動が掲載されるとともに、目標と振り返りを明記することで生徒の学習意欲を喚起し、見通しを持ちながら学習に取り組むことが可能な内容となっています。

「東京書籍」については、「書くこと」の教材において学習の流れで各ステップを明示して、生徒が抵抗なく取り組むことができるような工夫が見られました。また、巻頭の折り込みでお示ししたとおり、学習の見取り図を示すなどの工夫が見られました。

○長岡委員長 今回の説明で、観点Aと観点Bということで、「光村図書出版」と「東京書籍」に特長があるというお話でした。それぞれについて特長の理由は、例えば自学自習が可能な工夫がとられている、練習問題がある、意欲的に取り組めるような工夫がある、「生活に生かす」、学習意欲を高める工夫、学校図書館の活用、読書活動の推進の工夫などの観点から、「光村図書出版」と「東京書籍」に特長があるというご説明だったと思います。

各委員の皆さんから、質問等がありましたらお願いします。

○池田（光）委員 今回の2者は、大別すると、今まで話したように、非常に共通点もあり、内容も充実していると思いますので、とてもよいと思います。

一方、「三省堂」は、基本の言葉や表現力など、現代の物語もあるし、昔の

物語もあります。ですので、内容が非常に充実しているのではないかと思います。今の2者と違って、基礎に重点を置いているのではないかと思いますので、「三省堂」は捨てがたいと感じています。

○長岡委員長 ほかにいかがですか。

○池田（官）委員 私ももしご発言の機会があれば「三省堂」ということを言おうと思っていました。

先ほども質問させていただいたのですが、「光村図書出版」は大変素晴らしいと思います。ただ、「三省堂」は、ポップづくり、ビブリオバトル、「読書郵便を楽しもう」など、読書活動について、楽しいものが提示されていると思います。学習していく過程では、各者かなり工夫されており、大きな差はなく、どの教科書も素晴らしいと思うのです。ですから、読書活動の面で非常に明るく楽しい活動があるものを配慮していただければと思いました。非常に捨てがたいのではないかと思います。

○白井委員 私も同意見です。

○池田（光）委員 「三省堂」2年の130ページには旭山動物園ということで、北海道のことが書いてあります。今まで見た中でこれだけ北海道のことが書いてあるものはなかったと思います。これは、読むことに力が入ると思います。

我々北海道としては非常に勇気ある事業でしたので、取り上げてよいのかなという気がしました。

○長岡委員長 ほかにいかがですか。

（「なし」と発言する者あり）

○長岡委員長 それでは、委員の皆様方からのご意見、小委員会からのご意見を踏まえすと、「東京書籍」「光村図書出版」「三省堂」の3者になろうかと思えます。

絞り込みとしては、5者から3者ということではよろいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長岡委員長 それでは、冒頭にお話ししたとおり、本日は1者に絞る込むの

ではなく、数者を選定候補として挙げることとなりまして、今、3者でございました。

それでは、国語については、「東京書籍」「光村図書出版」「三省堂」の3者を教科書を選定候補とすることとして、8月7日（金）に引き続き審議を行い、1者に設定することとします。

それでは、次の種目の書写です。

国語小委員会委員長から、書写の調査研究報告の説明をお願いします。

○国語小委員会委員長 続いて、書写についてご説明します。

今回、調査研究の対象となったのは、「東京書籍」「学校図書」「三省堂」「教育出版」「光村図書出版」の5者5種、合計5点の教科書です。

まず、調査研究の観点Aである採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明します。

採択参考資料の書写1ページをご覧ください。

書写の指導については、学習指導要領において、生活や学習場面に役立つよう、内容や指導のあり方の改善を図ることが重視されています。

書写2ページの様式2から書写16ページの様式4の別記までについてですが、様式2のうち、一番下にある観点の使用上の配慮等の第2項目の主体的に学習に取り組むことができるような工夫と、その次の第3項目の使用上の便宜について各教科書の特長が見られましたので、ご説明します。

まず、主体的に学習に取り組むことができるような工夫の項目についてですが、各教科書とも、学習の進め方について、段階を設けることで生徒が主体的に学習に取り組むことができるような内容となっています。特に顕著な特長が見られたものとしては、「学校図書」は、教材ごとに「硬筆で書こう」というコーナーを設け、毛筆で書いた文字を改めて硬筆で書くことで、学習の振り返りを行うことが可能な構成となっていました。

次に、使用上の便宜についてですが、各者とも、巻頭などに学習の見通しをもつことができるような内容を掲載していますが、特に、「光村図書出版」は、目次に3年間の目標を掲載しており、中学校3年間の学習に見通しをもつことが可能な内容となっていました。今、画面上でお示しした左上のところですが、3年間の目標として3項目にわたって目標を明示しています。それが特長となっていました。

次に、調査研究の観点Bの札幌市として設定する調査研究項目についてご説明します。答申の国11ページをご覧ください。

書写においては、札幌市として設定する調査研究項目として、計2項目について調査研究を実施しましたが、それぞれについて各教科書の特長が見られた

ので、説明します。

札幌らしい特色ある学習活動とつながりをもった書写学習が可能な内容となっているかという観点で調査研究を行いました。

まず、読書については、「東京書籍」では本につけるカバーづくり、「三省堂」ではポップづくり、「光村図書出版」では読書を活用したポスターセッションが扱われており、それぞれ読書活動について考えることが可能な内容となっていました。また、「光村図書出版」は、加えて、本の帯、しおり、ポップづくり、読書記録などについても扱われ、読書活動と関連した学習活動が可能な内容となっています。

続いて、環境についてですが、「学校図書」は河川敷の清掃活動に関わるポスター書きなどがあり、「教育出版」は植物の種類と環境についてレポートを書く学習活動が扱われており、それぞれ環境について考えることが可能な内容となっていました。

続いて、2の(1)文字を書くことの取扱いについてご説明します。

答申の国13ページをご覧ください。

ここでは、基礎的・基本的な知識である文字に関する興味・関心を高めるとともに、伝統的な文字文化に対する認識や、書写に親しむ態度を育む学習が可能な内容となっているかという観点で調査研究を行いました。

各教科書とも、学んだことが日常生活に生かされたり、書写に親しむ態度を育んだりすることが可能な内容となっていました。中でも「東京書籍」「教育出版」「光村図書出版」に特長が見られたので、ご説明します。

まず、「東京書籍」の102ページをご覧ください。

ここでは、書写テストに挑戦と題しまして、まとめの問題を出題し、これまでの学習内容を振り返ることが可能な内容となっていました。

「教育出版」では、社会で生きる文字において、実際の活用場面を知り、社会生活での活用の意識を高める学習が可能な内容となっていました。

「光村図書出版」の10ページをご覧ください。

学習のポイントとなる部分を空欄にしている、生徒が自分で書き込むことで書写への意欲を高めることが可能な内容となっていました。加えて、3年間のまとめでは、書写に関する問題が掲載されており、振り返る活動が可能な内容となっていました。

以上、書写について説明しました。

○長岡教育長 それでは、今の説明に対して、各委員からご質問があればよろしく申し上げます。

○池田（官）委員 例えば、「光村図書出版」のポスターセッションや「三省堂」のポップづくりなど、国語の教科書との結びつきが随分あるように感じました。基本的なことかもしれませんが、現場では、国語の発行者と書写の発行者は同じ方がやりやすいものではないでしょうか。それとも、違っていても特に問題はないものではないでしょうか。

○国語小委員会委員長 国語、さらには書写、それぞれに狙いがあり、その方針に基づいて編集されていますので、必ずしも同じでなくても構わないと考えます。ただ、子どもの立場になると、内容との関連でこれは教科書にも書いてあったな等の親しみをもって取り組むことができることはあるかと思えます。

○横道企画担当係長 「光村図書出版」70ページのポスターセッションのページをご覧ください。

「光村図書出版」の場合は、国語の教科書にもポスターセッションが取り上げられています。例えば、書写の教科書で文字をきれいに、配列をきれいに書くことを学び、それをを用いて国語の教科書で実際のポスターセッションを行うことも可能な内容にはなっています。

○阿部委員 調査研究項目の中の「札幌らしい特色ある」というところですが、札幌らしさとはどういうところを示しているのか、その辺りからご説明いただければと思います。

○横道企画担当係長 札幌らしさというのは、雪、環境、読書の関わりという関連で今回は調査研究を行っています。

雪に関しては、書写の教科書の中ではなかなか扱えない部分がありますが、環境や読書については、それぞれ取り上げているところです。

○臼井委員 先ほどもお話があったことですが、ポップをつくろうや、ポスターセッション、壁新聞をつくろうということがありました。私たちの時代の書写というと、いわゆる習字の時間だと思っていたのですが、これはある意味で国語と一体化したような感じですか。もちろん書写の部分はあるのですが、国語の学習とかなりリンクした内容になっています。現実には、書写の指導の実態というのは、ここの学習とリンクした形でやっているのでしょうか。それとも、独立性が高いのですか。

○横道企画担当係長 それぞれの狙いがあります。例えば、書写については、

実生活に生きる、あるいは学習場面に生きる力をつけたいということが目標になっています。学習場面がどこに設けられるかということ、国語や、各教科のレポートづくりなどに生きてきます。ですから、書写で習得した力を発揮する場面を設けていくということは書写において非常に重要です。

先ほどのポスターセッションもそうですが、学習場面を設けていく、単に書いて終わりではない、これをどこかに生かしていくのだという意識を子どもたちにもってもらおうということが、書写の非常に重要な要素だと考えています。

○国語小委員会委員長 補足ですが、書写の授業時間数が定められていて、第1学年・第2学年が20時間、第3学年のみ10時間となっています。これは、あくまでも目安ですが、生徒の実態や状況に応じて弾力的に国語科の授業の中で行っていることですので、国語の教材と関連したものであると、実際の現場では指導しやすいということもあろうかと思えます。

○池田(光)委員 「東京書籍」の64ページに、フェルトペンで英語で「All for one, One for all」と書いてありますが、これは現場としてどう感じられるのでしょうか。

これから英語の書写が出てくるとよいと思っているのですが、これは実際にどのように活用されるものですか。

○横道企画担当係長 書写は、毛筆、硬筆を使用することが学習活動に含まれています。この場合、フェルトペンということもありますが、書かれているのは英語であるということも考えると、発展的に扱う学習活動であると捉えても間違いのないのではないかと思います。

自分の好きな言葉や自分の好きな文章の中の1節を抜いて自分で色紙に書くという活動は授業でもよく行っているところですので、その一環と捉えていただければと思います。

○長岡教育長 ほかによろしいでしょうか。

それでは、私から小委員会の委員長にお伺いします。

調査研究の観点Aに関して、学習指導要領を踏まえた採択参考資料から見た場合、特長が顕著な教科書はどの教科書になるのか、その理由と併せてお聞かせください。それから、調査研究観点Bの札幌市として設定する調査研究項目において特長が顕著である教科書及びその理由をお聞かせください。

○国語小委員会委員長 調査研究の観点Aに関して、特長が顕著な教科用図書

は「光村図書出版」です。

理由としては、「光村図書出版」は、3年間を見通した内容を掲載していますし、書写の授業時数についても、1年生20時間、2年生20時間、3年生10時間を示されている中で、3年間の見通しを持ちながら指導に当たることが可能となっています。

調査研究の観点Bに関しては、「教育出版」と「東京書籍」と「光村図書出版」の3者です。

「教育出版」については、植物の種類と環境についてレポートを書くというような学習活動が扱われており、他教科、とりわけ理科等の学習にも活用できる内容となっています。「東京書籍」と「光村図書出版」は、書写に関する問題、設問が掲載されており、そのことによって生徒が学んだことを振り返ることが可能な内容となっています。

さらに、「東京書籍」は、職場体験を取り上げ、総合的な学習の時間にも生かすことができる等、学習活動が掲載されています。

「光村図書出版」は、ポイントとなる事項を空欄にし、生徒が自ら書き込めるような工夫がされており、生徒の主体的な学習に結びつけられるような内容となっています。また、書写の学習からも、具体的な読書活動に発展できる内容となっています。

○長岡教育長 今、小委員会委員長から説明がありましたが、それに関しましてはいかがでしょうか。

観点Aが「光村図書出版」、観点Bが「教育出版」と「東京書籍」と「光村図書出版」です。

観点A及びBで特長が顕著であった教科書は「光村図書出版」で、観点Aでは、3年間を見通した授業ができるということ、観点Bでは、ポイントとなる項目が空欄で、生徒が自ら考えて書き込むことができる、主体性を引き出すような工夫が見られるという理由です。

それから、観点Bで、理科の学習にも活用でき、学習活動が扱われているという観点から「教育出版」。また、学んだことを振り返ることが可能だという観点から「東京書籍」。そして、「光村図書出版」も、問題、設問を掲載して振り返ることができることから、特長のある3者というお話がありました。

ほかにご意見はありますか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 おおむね、そのような観点からということによろしいでしょう

か。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、皆さんのこれまでの意見と小委員会の意見を踏まえ、「東京書籍」「教育出版」「光村図書出版」の3者ということになります。よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、その3者の教科書をそれぞれ選定の候補として、8月7日(金)に引き続き審議を行ってそれぞれ1者を決定することとします。

それでは次に、保健体育について審議を行います。

審議の前に、私から小委員会委員長に確認します。

特定の組織や団体あるいは会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

○保健体育小委員会委員長 ありません。

○長岡教育長 それでは、保健体育小委員会の委員長から、調査研究報告の説明をお願いします。

○保健体育小委員会委員長 それでは、保健体育小委員会の調査研究報告を行います。

今回、調査研究の対象となったのは、「東京書籍」「大日本図書」「大修館書店」「学研教育みらい」の4者、合計4点の教科書です。保健体育小委員会において、教育委員会が定めた「平成28年度から使用する中学校用教科用図書の調査研究の基本方針」に基づき、公正・中立な立場から具体的な調査研究を進めてきましたので、ご報告します。

まず、調査研究の観点Aである北海道教育委員会が作成した採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明します。

まず、採択参考資料の保体1ページの一番上の欄をご覧ください。

保健体育科では、学習指導要領において、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てることが目標とされています。

次に、保体2ページの様式2から保体13ページの様式4の別記までについて

です。

この中では、様式4の④主体的な学習を促す内容を取り上げている箇所数について各教科書の特長が見られました。

保体7ページの様式4の左側④をご覧ください。「東京書籍」が72カ所、「大日本図書」が92カ所、「大修館書店」が44カ所で、「学研教育みらい」は103カ所と最も多く掲載されています。この「学研教育みらい」については、例えば、活用しようというコーナーで、身近な課題について考えることを促すなど、子ども自らが身に付けた知識を使って考え、話し合うことを促しているところに特長が見られます。

次に、調査研究の観点Bの札幌市として設定する調査研究項目についてご説明します。

答申の保2ページをご覧ください。

今回、調査研究項目として計4項目について調査研究しましたが、そのうち、1の(1)身の回りの環境の取扱い、2の(2)自らの健康を適切に管理し改善していく思考力・判断力を育む学習内容の取扱い、3の(1)性に関する態度や行動の取扱いについては、各教科書の特長が見られたので、ご説明します。

まず、1の(1)身の回りの環境の取扱いについてご説明します。答申の保3ページをご覧ください。

ここでは、健康に適した快適な環境の維持と改善について科学的に理解し、身の回りの生活環境を自ら整えようとする実践的な態度を身に付けることが可能な内容となっているかという観点で調査研究を行っています。

各者の特長が見られたので、ご説明します。

「東京書籍」は、暖房器具等の注意書きや取扱説明書をもとに安全な使い方について考える活動が設定されており、家庭生活での実践的な態度を身に付けることが可能な内容となっています。

「大日本図書」は、自然環境を守るためのキャッチフレーズを考える活動を通して、環境保全への意識を高める内容となっています。

「大修館書店」は、照明器具に含まれるブルーライトによる健康への影響が掲載されています。

「学研教育みらい」は、室温等の調節について、具体例をもとに考える活動が設定されており、生活環境を自ら整えようとする実践的な態度を身に付けることが可能な内容となっています。また、循環型社会を目指して、自分の暮らす地域のごみの分別について考える活動が掲載されており、環境保全への意識を高めることが可能な内容となっています。

次に、2の(2)自らの健康を適切に管理し改善していく思考力・判断力を育む学習内容の取扱いについてご説明します。

答申の保5ページをご覧ください。

ここでは、自らの健康を適切に管理し、改善していく思考力・判断力を育むことが可能な内容となっているかという観点で調査研究を行いました。

各者の特長についてですが、まず、ストレスに対処する方法については、「東京書籍」「大日本図書」「学研教育みらい」に特長が見られました。

「東京書籍」の24、25ページをご覧ください。

具体事例をもとにストレスへの対処の仕方を考える活動が設定されていて、前向きな受けとめ方を促すことで、適度なストレスは心の発達に必要であることに気付くことが可能な内容となっています。

「大日本図書」の63ページをご覧ください。

苦手なこと、やりたくないことへの見方を変えて、前向きに取り組むための計画を立てる活動が設定されています。ストレスに対して適切に対処する方法を考えることが可能な内容となっています。

「学研教育みらい」の29ページと31ページをご覧ください。

29ページにはストレスへの対処の仕方、31ページには上手なコミュニケーションの方法を考える活動が設定されています。自らの健康を適切に管理し、改善していく思考力・判断力を育むことが可能な内容となっています。

次に、災害発生時の傷害防止や安全確保については、「東京書籍」「学研教育みらい」に特長が見られます。

「東京書籍」の77ページ下段の「生かそう」をご覧ください。

こちらでは、災害発生時に自分が地域や他者のためにできることを家庭や学校で話し合う活動が設定されており、災害時の傷害防止や安全確保につながる思考力・判断力を育むことが可能な内容となっています。

「学研教育みらい」の71ページの中段のエクササイズをご覧ください。

地震速報や大雨注意報が出されたときなどの行動について考える活動が設定されており、災害時の傷害防止や安全確保につながる思考力・判断力を育むことが可能な内容となっています。

このほか、「大日本図書」「大修館書店」は、家族との連絡方法や避難場所について確認するなど、災害に対して日ごろから備える意識を高める工夫が見られます。

最後に、3の(1)性に関する態度や行動の取扱いについてご説明します。

答申の保7ページをご覧ください。

ここでは、生命を尊重する心や、自他の心と体を大切にすること、適切に行動を選択する力を育むことが可能な内容となっているかを観点として調査研究を行いました。

各者とも、イラストやデータを用いた分かりやすい構成を工夫しています。

その中で、特に「東京書籍」「学研教育みらい」に特長が見られました。

「東京書籍」は、異性の尊重と性情報への対処において、誤った性情報に惑わされないための注意点をもとに、友人へのアドバイスを考える活動が設定されており、適切に行動を選択する力を育むことが可能な内容となっています。

「学研教育みらい」は、性感染症とその予防、エイズでコラムを特設し、10から20代の性感染症の感染率が高い状態にあることを示す資料を用いて、身近な問題として捉えさせるとともに、性感染症やエイズの予防について話し合う活動が設定されています。自他の心と体を大切にす態度や適切に行動を選択する力を育むことが可能な内容となっています。

以上、保健体育についてご説明しました。

○**長岡教育長** それでは、今の説明に対して、質問等がありましたらお願いします。

○**山中委員** 教科書を読んだからといってできるものではないように思う問題ですが、北海道の子どもたち、あるいは、札幌の子どもたちの体力の低下が著しいということが昨今言われており、大変大きな課題になっています。

教科書として何がよいかを考える場合に、体力の低下や、全国の子どもたちに比べてかなり低いと言われるようなことではなく、子どもが伸び伸びと育つ、体力も増進させるために、この教科書を使ってこういうことをやっていけばよい、あるいは、子どもたちにこういうことを考えさせたらよいということを意識すると、札幌市教育委員会として使う教科書とすれば、どのようなところを取り上げているよいのでしょうか。

○**保健体育小委員会委員長** 札幌市が設定する調査研究項目の2の(1)に、主体的に運動やスポーツに親しむ意欲を高める学習内容の取扱いがあります。今、特に説明はしませんでした。この項目でも各者に特長が見られますので、説明します。

教科の目標として、生涯にわたって運動に親しむ能力を育てていくことにつながるということで、運動やスポーツとの関わりが心身に与える効果、あるいは、スポーツが人々を結び付けるような効果という観点から考えてみたいと思います。

答申の保の4ページをご覧ください。

「大修館書店」「大日本図書」「東京書籍」は、マラソン大会の例をもとに、行う・見る・支える・調べるなど、自分とスポーツとの関わり方を考えたり、体力測定の結果に基づいて自らのライフスタイルに合った運動の計画を立てた

りするところに特長が見られます。

「学研教育みらい」は、「活用しよう」のコーナーで、バスケットボールを例に効果的な練習方法を考えたり、災害から身を守る力としての体力の必要性について考えたりするということに特長が見られました。

○山中委員 北海道の場合は、特に冬期間の運動について考えなければならない部分があるということも言われていると思いますが、そういったこととの関係は、今回の教科書選定の上ではどうでしょうか。

○大井義務教育担当係長 冬季ということに限ったことではなく、通年で運動に親しむことが体力向上には大切だと思います。そういう中で、自分の体力の状況をしっかり知って、自らの課題に応じた運動の仕方を考えていくことが大変重要と思っています。

保4ページにもありますが、特に「東京書籍」「大日本図書」「大修館書店」で、自分の体力測定の結果をもとに体力づくりの計画を立てる活動が設定されており、自ら進んで運動を行う態度の育成が可能な内容になっています。

○池田（官）委員 2点あります。医薬品の利用や保健医療機関の利用、特に後者について比較的新しい内容だと思いますが、それについて各者に特長があったか。それから、依存性のある薬、危険ドラッグや覚せい剤、アルコールなどに関する記載について、各者の特長はあるのでしょうか。

○保健体育小委員会委員長 まず、1点目の保健医療機関や医薬品の有効利用についてですが、各者、学習指導要領等に配慮して書かれています。特長的には、「東京書籍」は、かかりつけ医の大切さが書かれています。「大日本図書」については、医薬品の取扱説明書をもとに正しい使い方を書いています。正しい仕様方法については他者も扱っているのですが、具体的に取扱説明書をというところがあります。

○大井義務教育担当係長 「東京書籍」の141ページをご覧ください。

「考えてみよう」というところがありますが、かかりつけ医のよい点を考える活動が設定されており、身近な医療機関の利用について考えることが可能な内容となっています。

「大日本図書」の141ページをご覧ください。

市販薬の取扱説明書の資料が載っていて、家庭で普段薬を使うときの注意点等をしっかり考えながら使うことが可能な内容となっています。

「大修館書店」の151ページをご覧ください。

Q&Aのコーナーに、薬の正しい使用法について6点ほど詳しく解説がされており、薬の使い方についてしっかり理解を深めることができる内容となっています。

「学研教育みらい」の119ページをご覧ください。

右下の「活用しよう」というコーナーですが、医療機関の活用について、身近な医療機関、保健機関をマップに落として考えていく活動が設定されています。場所を明らかにしながら、それぞれ、どのような使い方があるのかについて理解が深められる内容となっています。

また、121ページの「活用しよう」というところに「判断する」と書いてありますが、医薬品の使い方について、例が2つほど載っており、どういうところが誤りなのか、学んだ知識を活用して判断していくという活動があります。

○保健体育小委員会委員長 危険ドラッグについて、各者とも危険ドラッグ等の具体例を示して、勧誘されたときの断り方などのロールプレイングを行う活動が設定されています。中でも、「大修館書店」の137ページでは、危険ドラッグを話し合いのテーマに取り上げているところが特長です。

○池田（光）委員 大きなテーマだと思いますが、ストレスの件です。ストレスになりそうなときに、それを前向きに捉えていこうという表現をしているのは「学研教育みらい」だと思いますが、ほかも特長を教えていただければと思います。

○大井義務教育担当係長 ストレスへの対処における各者の特長についてご紹介します。

「東京書籍」24、25ページです。具体的には、野球の試合におけるミスが負けに結び付いてしまった事例をもとに、それをどのように捉えていくのかというところです。

まず、「やってみよう」というコーナーで、自分のエラーで試合に負けてしまった場合、もう変えられない事実は何でしょうか、また、Aさんの気持ちや行動を考えてみましょうという問題提起をしています。その後、ストレスへの対処の仕方を学んだ後に、「考えてみよう」のコーナーで、その後、Aさんがチームメートから励まされたり先生にアドバイスをもらったりして、自分のエラーによって負けた事実をどう捉え直して次に活かしていったのかなど、この活動を通じて前向きに捉えることを学んでいく内容です。

次に「大日本図書」63ページです。

先ほどの説明でも触れましたが、苦手な科目や早起きが苦手、部屋の掃除があまり得意ではない、やりたくないということを取り上げて、それらのことをやりたくないこととして後ろ向きに捉えるのではなくて、どう考えると前向きに取り組めるか、それをストレスと感ずることなく過ごすことができるのかを考える活動が設定されています。

続いて「学研教育みらい」27ページです。

これは、欲求への対処ということ、欲求不満が起こったときの行動について考える、「活用しよう」というところです。テスト勉強を頑張ったのにあまりよい点数ではなかった。通常は頑張って勉強したのでよい点数を期待するところですが、思ったような結果にならなかった場合にどう捉えていけばよいのかということ、ということです。

29ページでは、ストレスへの対処の仕方を考えるということ、ストレスへの対処の仕方の例として6点ほど参考事例が示されています。これらを踏まえて、自分なりに、普段、どういうふうにストレスに向き合っているのか、仲間と出し合って、どうストレスに対処していけばよいかを考えることが可能な内容となっています。そういった問題に直面した場合、自ら解決を図るような思考力や判断力を養っていくところに特長があります。

○阿部委員 性感染症のところですが、先ほど「東京書籍」の説明の中に、友人へのアドバイスというものがありました。非常に特長的なところではありますが、自分自身も分かっていないはずの子がどのようにアドバイスをするのか、あまりイメージが浮かびません。実際にはどういうシーンを想定されているのか、解説していただきたいと思います。

○保健体育小委員会委員長 この活動については、他者も同じように取り上げています。他者は、考えたり書き出したりするところにとまっています。特長的なのは、その説明をさらに説明したり誰かに伝えたりすると、ただ自分で考えたことだけではなくて、伝えるためには相手の言うことを聞くことも大事になってくるので、その辺りの活動が取り上げられているのが特長的な部分です。

○大井義務教育担当係長 具体の補足をします。

活動としては、インターネットサイトの利用を取り上げています。今、子どもたちは携帯電話、スマートフォン等で触れる機会が多いので、かなり身近な話題であると思います。

興味本位でいろいろ見ていくのですが、クリックしたら変な連絡が来てしまって性被害に遭うという事例が実際にございます。そういうことに至らないよ

う、どう対処すべきか、かなり具体的なケーススタディーです。

これについては、既に学んでいる部分があります。いろいろな対処の仕方であるとか、中学生になると性的な関心が高まってくるというところを学んだ上で、資料にあるように、誤った性情報に惑わされないための注意点の例をまずは学んでいきます。この例を参考にしながら、先ほどの事例にどう対応すべきかを判断していくといった課題です。ですから、単純に知識を記憶にとどめるということではなくて、具体の課題に直面したときにどう解決を図るかというより理解が深まらなければできないような活動であると思っています。思考力、判断力の養成には大切な活動であると考えています。

○阿部委員 それは、現実的ということですね。

○大井義務教育担当係長 実際に身近に起こり得るような課題に対応していくということで、あくまでも机上の想定ではありますが、世の中で実際にある事例ですので、より現実的に捉えながら学んでいくことが大切だと思います。

○長岡教育長 ほかによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、小委員会の委員長に確認します。

調査研究観点Aに関して、学習指導要領を踏まえた採択参考資料から見た場合の特長が顕著である教科書はどの教科書になるか、その理由と併せてお聞かせください。それから、調査研究観点Bの札幌市として設定する調査研究項目において特長が顕著であったのはどの教科書でしょうか、その理由と併せてお示しください。

○保健体育小委員会委員長 調査研究の観点Aに関して特長が顕著な教科用図書は、「東京書籍」と「学研教育みらい」の2者です。

理由としては、「東京書籍」「学研教育みらい」ともに主体的な学習を促す内容を取り上げている箇所が多く、身近な課題について考え、話し合う学習活動が充実していると考えられます。

調査研究の観点Bに関しましては、同じく「東京書籍」と「学研教育みらい」の2者です。

理由としては、「東京書籍」「学研教育みらい」ともに、身に付けた基礎的な知識や技能を活用して健康、安全の課題の解決を図るとともに、学んだこと

を実生活に生かすことが可能な学習内容に特色が見られたということです。

○長岡教育長 観点A、Bとも「東京書籍」「学研教育みらい」ということで、その理由として、それぞれ主体的な学習を促す内容を取り上げている箇所と、身に付けた基礎的・基本的な知識、技能を活用して問題解決に当たることを促している理由からということでした。

委員の皆様からご意見がありましたらお聞かせください。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 では、これまでの議論の経過と今の小委員会委員長の回答を併せて、「東京書籍」と「学研教育みらい」の2者ということになるかと思えますけれども、ご異議ありませんか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、この2者を選定の候補とすることとしたいと存じます。8月7日(金)に引き続き審議を行って1者を決定します。

次に、地理、歴史、公民、地図について審議を行います。

最初に、地理についてです。

私から、小委員会委員長に確認します。

特定の組織、団体あるいは会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

○社会小委員会委員長 ありません。

○長岡教育長 それでは、社会小委員会の委員長、地理の調査研究報告の説明をお願いします。

○社会小委員会委員長 社会小委員会では、地理的分野、歴史的分野、公民的分野、そして地図の4つの種目について、教育委員会が定めた平成28年度から使用する中学校教科用図書の調査研究の基本方針に基づき、公正・中立な立場から、慎重に調査研究を進めてまいりました。

それでは、地理的分野についてご説明します。

今回、調査対象となったのは、新たに文部科学省の検定を経た教科書の発行者から送付された「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「日本文教出版」の

4点の教科書です。

初めに、調査研究の観点Aである道教委が作成した採択参考資料を基礎資料とした調査研究内容を報告します。

採択参考資料の地理1ページをご覧ください。

社会科及び地理的分野の目標について書かれているとおりでありますが、具体的な要点として、内容の全体を通して、地図の読図や作図などの地理的技能を身に付けさせることを一層重視するとともに、身近な地域の調査において、諸課題を解決し、地域の発展に貢献しようとする社会参画の態度を養うことができるようにすることなどが示されています。

採択参考資料の地理2ページから地理33ページまで調査研究結果を示していますが、そのうち、様式2の取扱内容、使用上の配慮等におけるアイヌの人たちの歴史・文化等、様式4の⑩自ら進んで学習したり、調べたりするなど主体的な学習を促す内容を取り上げているページ数において特長が見られました。

まず、様式2の取扱内容、使用上の配慮等におけるアイヌの人たちの歴史・文化等についてです。

お手元の採択参考資料の地理2ページから5ページをご覧ください。

「東京書籍」「教育出版」では、アイヌの人たちの歴史・文化の継承の取組みを考察する資料が掲載されています。「東京書籍」の262ページをご覧ください。次に、「教育出版」の248、249ページをご覧ください。

「帝国書院」「日本文教出版」では、アイヌ民族の伝統的な文化に関わる写真が掲載されています。

次に、様式4の⑩自ら進んで学習したり、調べたりするなど主体的な学習を促す内容を取り上げているページ数についてです。参考資料の地理7ページになります。

「東京書籍」では、「ためしてみよう」や「えんぴつマーク」など、主体的な学習を促すコーナーが設けられており、合計77ページとページ数が多くなっています。

また、「教育出版」「帝国書院」「日本文教出版」でも、それぞれコラムやコーナーなどが設けられており、各者とも合計46ページとなっています。

調査研究の観点Bである札幌市として設定する調査研究項目について報告します。

報告書の社3ページをご覧ください。

地理的分野については、合計6つの項目について調査しましたが、そのうち、1の(2)未来の札幌を見つめる環境の取扱い、2の(2)札幌や北海道の地域的特色の取扱い、3の(1)資料の取扱いについてそれぞれ特長が見られました。

まず、1の(2)未来の札幌を見つめる環境の取扱いについてです。

報告書の社5ページをご覧ください。

4者とも、地域の環境問題や環境保全について調べる中、環境保全に関わる人の営みを知ることが可能な内容となっています。

その中でも、「教育出版」に特長が見られます。

専門ガイドによるエコツアーや湿原を使った環境教育など、教科書2ページにわたって北海道ならではの環境教育に触れて関心を高めることが可能な内容となっています。また、「帝国書院」「日本文教出版」でも、コラムやコーナーで日本各地の環境問題を取り上げることにより、各地域を比較して考察することが可能な内容となっています。

次に、2の(2)札幌や北海道の地域的特色の取扱いについてです。

報告書の社7、8ページをご覧ください。

4者とも、アイヌ語地名やアイヌ文化を初め、豊かな自然や観光業や農業、水産業など、北海道の地理的な特長について掲載されており、北海道への関心を高めることが可能な記載があります。

その中で、「東京書籍」「帝国書院」では、1次産品を原料とした食品加工や北海道物産展の写真が掲載されています。

例えば、「帝国書院」の261ページをご覧ください。

また、「教育出版」の242ページから245ページをご覧くださいなのですが、こちらは、4ページにわたって北海道の産業の特長である農業と漁業を取り上げ、農業は輸出拡大、漁業は育てる漁業で苦境を脱しようとしていることが記載されています。「日本文教出版」でも、TPPや食の安全について記載されているなど、北海道の産業への関心を高める内容について特長が見られました。

最後に、3の(1)資料の取扱いについてです。

報告書の社9、10ページをご覧ください。

4者とも、領土をめぐる問題が取り上げられており、国際平和のために解決すべき問題であることを意識することが可能な内容となっています。

その中で、「東京書籍」では、北方領土などの地形図等が掲載されており、「教育出版」では、歴史的経過を踏まえた内容が本文に記述されています。

また、「帝国書院」の126、127ページをご覧ください。

竹島の位置を表す図や昭和初期の様子の写真、北海道から見える北方領土の写真が掲載されており、国際問題を正しく理解することが可能な内容となっています。

なお、「東京書籍」「帝国書院」では、世界と日本の諸地域節頭のページに、その州、地方の特色を示す写真が掲載されており、各地域への関心を高める構成となっています。

以上で地理的分野のご説明を終わります。

○長岡教育長 各委員からご質問がありましたら、よろしくお願ひします。

○臼井委員 地理について、地図の読み取りや、つくり方等の地図の指導のことが1点です。

もう1点は、いろいろな産業について、どのぐらい生産しているといったグラフや資料など、読み取りのスキルがあるのですが、地図の学習スキル、地理的なデータの読み取りの2点に関して、どのような特色があるのか、教えていただけますか。

○社会小委員会委員長 地図及びグラフの読み取り等については、札幌市の調査研究報告書、社の6ページをご覧ください。

身近な地域の諸活動と社会参画については、「東京書籍」と「帝国書院」では、日本の諸地域で学習した地域の特色を捉える7つの視点、例えば「環境について」「人口について」を参考に、身近な地域の調査を行う構成となっています。そういう点から、学習の継続性の観点について特色が見られます。

また、「教育出版」では、調査活動から見えてきた地域の活動を解決するために、まちづくりの提案を地域に向けて発信する構成となっており、生徒の社会参画の意識を高める観点から、特色が見られます。

「日本文教出版」については、関連図を作成し、地域の特色を明確にするとところに特色が見られます。

このように、それぞれ発行者で地図及びグラフの見取りを活用できるようにつくられています。

○工藤企画担当係長 補足します。例えば、「教育出版」であれば、冒頭の6ページですが、特色としては地理の学習の最初のところで、地図の見方や資料の作成の仕方などをかためて学習するというのが構成の特色です。また、そのほかの教科書については、それぞれ随所に作業的なページが盛り込まれて、地図の読み方やグラフの作成の仕方などを学習するような構成になっています。

○臼井委員 データの読み方についてはいかがでしょうか。

○社会小委員会委員長 社の9、10に、資料の取扱いということで、例えば「東京書籍」においては、地理的技能を身に付ける「地理スキルアップ」等のページが各所に設けられ、それぞれを比較したり関連付けたりして学習課題を解決

することが可能な内容となっています。

また、「教育出版」でも、地図やグラフの見方を確かめる「地理にアプローチ」を冒頭に設けており、作業活動を通して理解が深まり、調べたことを比較することなどが可能な学習内容となっています。

「帝国書院」では、地理の基礎的スキルを身に付ける「技能をみがく」が設けられており、地図やグラフの読み取り方を学ぶことにより、調べたことを比較したり関連付けたりして学習課題を解決することが可能な内容となっています。

「日本文教出版」においても「スキルUP」が設けられており、調べたこと、比較したことを関連付けて学習課題を解決することが可能な内容となっています。

○**臼井委員** 1年生と2年生では地理分野と歴史分野を交互にやっていますが、そのときに、地理の分野の教科書で歴史分野のものとのつながりを意識したり関連付けをしたりしているようなところはありますか。

○**工藤企画担当係長** 今、委員からありましたように、地歴並行学習と言いまして、地理的分野と歴史的分野を関連付けています。その際に、地歴のつながりを意識している者はありますが、一方で、どの者も配列としては同じ形になっていますので、学習には問題ないようなスタイルになっていると思います。

併せて、地理と歴史を並行して学習した知識を使って公民的分野で問題解決型の学習に取り組んでいく、つまり、地理と歴史を横で関連付けるというよりは、公民的分野で縦の流れで関連付けていくという3年間のトータル的な構成になっていると把握していただければよいかと思います。

○**阿部委員** ほかの科目に比べると、1ページに入っている地図やグラフ、写真などの量が非常に多いので、地理が苦手なお子さんが途中から授業についてこられなくなりそうなことがないような工夫はどの発行者もされているとは思いますが、その中でも特に工夫がある教科書がありましたらぜひ教えていただきたいと思います。

○**社会小委員会委員長** 地理的な内容について、段階を経ながら、それぞれの技術を磨き、スキルを身に付けることを目的とした配列となっています。その上で、各所、各単元の狙いに基づき、本文と資料、本文と写真、本文とグラフが1時間の中でそれぞれおさまるようになっています。

もう1つは、教科書は大抵見開き1ページですが、左の方で明確に1時間1時間での学習課題が設定されています。内容については、最終的に右端の下の

ページでそれを振り返る形の中で資料、地図、グラフ等をもとに、その内容について学習課題を身に付けることができるような構成になっています。

○工藤企画担当係長 例えば、「東京書籍」の133ページをご覧ください。これは、「東京書籍」だけの特色ではなくて、各者に見られる特色です。133ページの右上には日本の領土返還の歴史と北方領土という地図が載っていますが、ここに8番という数字が書いてあると思います。これは、本文中のすぐ左側のところに太字で北方領土と書いているところがあります。このように、本文の文章に関わる資料が対応するような形になっていますので、この資料がどういう意味付けなのかというのは、本文で確認したり、本文の内容を資料で確認したりという形で構成されています。

○臼井委員 北海道教育委員会の採択参考資料を見ますと、総ページ数で言うと、「東京書籍」がほかのものよりも分量的にかなり多いです。例えば、「東京書籍」は295ページありますが、「教育出版」が279ページ、「帝国書院」が280ページ、「日本文教出版」が281ページと、前回に比べると「東京書籍」のページ数が相当増えています。実際に、ページ数が多いということはそれだけ詳しいということで、1時間1時間の扱いの中でできる範囲のものと思いますが、ページ数が増えることによって指導上の特段の工夫や変化が必要になるものなのでしょうか。

○社会小委員会委員長 各発行者が295ページから281ページということで、数字そのもので見たときには前回よりも増えている発行者、逆に減っている発行者があります。内容は、それぞれの項目について触れています。例えば、さらに深める内容について、特集ページを設けて、一步深めようという内容になった場合については、本文プラスということで総ページ数が増えています。

日本の諸地域で言うと7つの視点に基づいて学習する内容はそれぞれ学習指導要領において決まっている内容ですから、それについて深める、特設ページを設ける、または、先ほど言った地理の技能を身に付けるようなところでそれぞれの教科書の総ページ数の違いはあるかと思います。

ただ、現場で指導する立場においては、その部分の差異はそれほどないかと思えます。

○臼井委員 つまり、指導上は、特別の配慮や決まった時間でやることでは問題ないということですね。

○社会小委員会委員長　そう思います。

○池田（官）委員　地理については、恐らく、各地域の共通性と各地域の特殊性について知るということがとても大事だろうと思います。要するに、いろいろな現象や、生活の様子などがなぜそうなっているのかということを考えることが大事な視点だろうと思います。

そういう観点から、「東京書籍」の教科書は、北海道の採択資料を見ると、自ら進んで学習したり調べたりするなどの内容を取り上げているところが多いです。実際に教科書を拝見すると、各ページの下の部分に、「予想しましょう」や「説明しましょう」「考えてみましょう」がついています。これはとても大きな特長だと思いますが、実際の学校での授業場面で生かすことはできるのでしょうか。

ものすごくたくさん疑問が呈されていると思うのですが、実際の効果はどこまであるのかということについて少しお考えをお聞かせください。

○社会小委員会委員長　まず、最初にありました特長を関連付けるという部分は、今の日本の地理の学習において、動態地誌という表現になりますが、今までのような羅列ではなくて、一つの地域的特色をもとにして関連付けて課題を解決していくということで、今のご指摘のとおりと思っています。日本の諸地域については、そのような形で各発行者の構成がされています。

「東京書籍」で言うならば、258、259ページの下のほうに「ふりかえり」というものがありますが、これはほかの教科書にもあります。例えば、「教育出版」であれば、北海道の242ページ、243ページにも課題が左上にあり、右側に振り返りのページがあります。同じく、「帝国書院」の北海道の260、261ページに、「確認しよう」「説明しよう」という形になっています。「日本文教出版」では、学習の確認と活用ということで、それぞれのところで必ず各自1時間ごとの振り返りの内容があると捉えていただければと思います。

使い方についてという部分においては、今までの部分においても、特に困難はないと思っています。

○池田（官）委員　確かに「東京書籍」だけが目立つように書いてあるので非常に特長的なのかと思いましたが、ほかの発行者の教科書にも同じようなことが同じような分量であるということがよく分かりました。

○山中委員　自然災害の防災の取組みの関係で、どの者もそれなりのページを割いて写真を載せているようです。あまり恐怖感を抱かせてもいけないという

配慮があるかもしれませんが、写真を見ても、迫真性がないといえますか、きれいな感じの写真になってしまっているものもある感じがしますが、この辺りの捉え方の違いをどう評価していますか。

○工藤企画担当係長 例えば、東日本大震災の関係ですと、「教育出版」の236ページで「震災を乗り越えて」というタイトルで震災に関わるようなことや、「帝国書院」をご覧いただくと、146、147ページには、災害復興ということで、自衛隊と消防隊が災害救助の作業をしている写真が取り上げられています。

「日本文教出版」の140ページです。例えば、上には、津波の実際の様子写真が掲載されています。このような形で、実際の様子を写真で見ることによって、写真でしか見られませんが、子どもたちに実感してもらうようなことが意欲を高めることで言うと考えられると思います。

4者を調べましたが、1つ特色があるのは「東京書籍」でして、目次の3ページの右下をご覧ください。「東京書籍」だけは、教師と保護者の皆様へということで、災害の写真を扱っているけれども、いわゆるご配慮をということで、札幌にも東北地方から避難されている方もいらっしゃいますので、そういうところで配慮を促していることに特色があるかと思えます。

○山中委員 「東京書籍」の152ページは、空港の被害で、第三者的に見ると、惨状というものをあまり感じません。ところが、ほかのところのものを見ると、例えば、「教育出版」の146ページ、「帝国書院」の144ページなどは、まさに津波が迫ってくる、それによって自動車などが押し流されている、ああいうものを見せない方がよいという判断でしょうか。空港と比べると、全く違うという感じがします。

○社会小委員会委員長 配慮ということが1つです。それから、札幌市の調査研究報告書の社の11、12の一番下のところで比較しているのですが、防災教育の視点ということで、資料をどのように使っていくか、または内容をどのように使っていくかということに関わっていくと思います。惨状を見せる、見せないという部分がありますが、それ以上に、例えば「東京書籍」で言うならば、それぞれ身近なところについて調べる学習、「教育出版」であれば、震災を通じて自らの地域について学ぼうという形など、それぞれの発行者において資料、写真の使い方の差異があると思えます。それは、資料の調査研究報告で参考までにということでそれぞれのものを入れています。

○長岡教育長 ほかによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、私から小委員長にお聞きします。

調査研究観点Aに関して、学習指導要領を踏まえた採択参考資料から見た場合の特長が顕著な教科書とその理由を併せてお聞かせください。それから、調査研究観点B、札幌市として設定する調査研究項目において、特長が顕著であった教科書とその理由を併せてお聞かせください。

○社会小委員会委員長 調査の観点Aに関して、特長が顕著な教科用図書は「教育出版」と「東京書籍」の2者です。

理由としては、教育出版については、アイヌの人たちの歴史や文化についての記載が多くなっており、「東京書籍」については、先ほども説明したとおり、自ら進んで学習することができる構成となっています。

調査研究の観点Bに関しては、「教育出版」と「帝国書院」の2者です。

理由としては、「教育出版」は、北海道ならではの環境教育に触れていたり、北海道の産業の特色である農業や漁業に関するページ数が多くなっていたりしています。「帝国書院」については、各地方の様子や領土に関する写真、資料を掲載し、地域の課題を分かりやすく提示しているなどの工夫が見られました。

○長岡教育長 ただいま、Aの観点について「教育出版」は、アイヌ民族の歴史・文化についての記載が多いということでした。それから、「東京書籍」は、自ら進んで学習ができる構成になっているということでした。観点Bについて「教育出版」は、北海道の特色、農業、漁業に関する記載のページ数が多いという観点から、「帝国書院」は、地方の様子、領土に関する掲載が多いといった特色があるといった報告です。

地理は4者の中で、「教育出版」「東京書籍」「帝国書院」の3者ということですが。これについて、皆さんからご質問等はいかがでしょうか。

○池田（光）委員 「日本文教出版」では、結構横断的に書かれていて、各分野を上手につなげながら書いている表現があるので、捨てがたいところがあり、ここで決めてしまうのもどうかと思うぐらい、私の気持ちの中ではきっこうしています。だから、今日の会議があったと思うので、「日本文教出版」は諦めざるを得ないのかという気持ちがあります。つらいところという思いで3者を選択したいと思っています。

○長岡教育長 今日と明後日は絞り込みの日でございます。4者ですので、で

できれば「日本文教出版」の方がよいということであれば、こちらを落とそうと判断いただければと思います。絞り込むという意味では、この3者でよいかと思いますが、ほかにご意見はございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」の3者を選定の候補とすることよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、8月7日(金)に3者の中から1者を決定したいと存じます。

続きまして、歴史についての説明をお願いします。

○社会小委員会委員長 それでは、歴史的分野についてご説明します。

今回、調査対象となったのは、新たに文部科学省の検定を経た教科書の発行者から送付された「東京書籍」「教育出版」「清水書院」「帝国書院」「日本文教出版」「自由社」「育鵬社」「学び舎」の8点の教科書です。

初めに、調査研究の観点Aである道教委が作成した採択参考資料を基礎資料とした調査研究内容を報告します。

採択参考資料の歴史1ページをご覧ください。

このページには、歴史的分野の目標について書かれています。

具体的な要点としては、我が国の歴史の大きな流れを理解させ、歴史について考察する力や説明する力を育てるため、各時代の特色や時代の転換に関わる基本的な内容の定着を図り、課題追究的な学習を重視することなどが示されています。

採択参考資料の歴史2ページから歴史78ページまで調査研究結果を示しています。そのうち、歴史の11ページをご覧いただきたいのですが、様式4の⑤我が国の領土に関する内容を取り上げているページ数において特長が見られました。採択参考資料の58ページから64ページも併せてご覧ください。

「東京書籍」と「教育出版」はそれぞれ21ページ、「帝国書院」は24ページにわたって我が国の領土に関する内容を記載した特設ページやコラムが設定されています。さらに、「帝国書院」では、領土問題の歴史的背景を深く理解することが可能な学習課題と資料が掲載されているという特長が見られます。

調査研究の観点Bである、札幌市として設定する調査研究項目について報告

します。報告書の社13ページをご覧ください。

歴史的分野は、合計9項目について調査しました。そのうち、2の(2)北海道の歴史の取扱い、3の(1)アイヌ民族の歴史や文化等の取扱い、4の(2)問題解決的な学習の取扱いについて特長が見られました。

まず、2の(2)北海道の歴史の取扱いについてです。

同じく報告書の社17、18ページをご覧ください。

ここでは、北海道の歴史の特殊性についてどのような記述となっているかを調査研究しました。その結果、多くの教科書で、縄文時代の後、北海道では採集や狩猟の生活が中心であったことや、近代における北海道の開拓について掲載され、本州などの歴史とは異なる部分があることが分かり、北海道の歴史への興味・関心を高める内容となっています。中でも、「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」は、擦文文化からアイヌ文化への発展について記載されています。

例えば、「教育出版」では、コラムと写真で、オホーツク文化と擦文文化について掲載されています。また、「帝国書院」は、紀元前400年から1800年ころまでの北海道の歩みを南西諸島や本州、九州、四国と比較できる図が示されているという特長が見られました。

次に、4の(1)アイヌ民族の歴史や文化等の取扱いについてです。

報告書の社19、20ページをご覧ください。

8社とも、中世におけるアイヌ民族の生活や、近世における松前藩との交易及びシャクシャインの戦いなどについて記載されています。加えて「帝国書院」は、アイヌ民族の人権に関わる近現代の歴史的事象として、同化に関する政策、アイヌ文化振興法の制定、アイヌの人々を先住民族とすることを求める決議の採択が3つとも記載されており、アイヌ民族を尊重し、差別や偏見をなくすことを理解することが可能な内容となっています。「東京書籍」「教育出版」「日本文教出版」においても、これらの3つの歴史的事象のうち、それぞれ2つが掲載されています。

最後に、4の(2)問題解決的な学習の取扱いについてです。

8者とも、各章の章末に、その時代の特色などについて説明させる課題が設定されており、自分の言葉で表現させる構成となっています。

特に、「東京書籍」の62、63ページをご覧いただきたいのですが、章の初めでは、前の章と関連付けて章全体の大まかな流れや特色を捉えられるという特長が見られました。

続いて、「帝国書院」の50、51ページをご覧いただきたいのですが、ここでは、人々の生活の様子を描いたイラストと、その説明から時代の特色をイメージできるページが設定されており、時代の転換期について考察し、自分の言葉で表現できるよう構成されているという特長が見られ、この点については学校

意見においても触れられております。

最後に、「日本文教出版」の66、67ページをご覧ください。時代の転換期について考察し、自分の言葉で表現することが可能な特設ページが、このページのほかに4カ所設定されています。

以上で、歴史的分野の説明を終わります。

○長岡教育長 今の説明に対して、ご質問がありましたらお願いします。

○池田（光）委員 歴史では、私の経験上からも、近代に重きを置いた学習が必要かと思いますが、その辺りは実際に教科書にあらわれているものですか。

○社会小委員会委員長 北海道の採択参考資料の歴史11をご覧ください。

①大項目ごとのページ数の「近代の日本と世界」及び「現代の日本と世界」それぞれの総ページ数が書かれています。ただ、近現代の記述について、各者とも大きな差異はないと考えています。

また、現在3年生でも、近現代の学習で40時間あり、一層重視されています。そういう点においても、近現代について、各者とも大きな差異はないかと思えます。

○伊達義務教育担当係長 補足いたします。

現行の学習指導要領では、近現代の学習の重視というところが1つのポイントになっています。ただ、学習指導要領の解説に記載されていますが、必ずしも学ぶ事象の増大や詳細化を意味するものではありません。まず、学習指導要領にある狙いに沿ってしっかりと学習をする、ということになっています。

○山中委員 社会の関係は、歴史を単独に勉強するというだけではなく、地理ともつながって、その地理・地政学的なところから歴史がこう動いてきて、その歴史が動いてきた結果として今があり、今の公民的なシステムや考え方があるといふ形になってくると思います。その辺りのつながりを意識したバランスのよい教科書が求められると思います。

そういう観点から見ると、各者どうでしょうか。

○伊達義務教育担当係長 地理的分野、歴史的分野、3年生の公民的分野において、社会参画等を含めて社会的資質を育むというのが現学習指導要領の内容になっています。

関連性ですが、それぞれ地理、歴史、公民的分野における学習指導要領の

趣旨に沿ったもので教科書会社は内容を設定していると思います。それを受けてという形ですので、各者で大きな差異は見られないかと思います。ただ、具体の項目について、札幌市として身に付けさせたい力として、それぞれの教科書を見たときにどうかという観点で私たちは調査を進めてまいりました。

○池田（官）委員 歴史の学習で、因果関係や比較が非常に大事だと思います。最も分かりやすいのは、図での比較や、図を見て考えてもらうということが分かりやすく、因果関係を捉えることでつながっていくという気がします。

教科書も、それぞれの会社によって記載に微妙な差がある面もありますが、図の見せ方で特長はあるのでしょうか。大きい、小さいというレベルでも構いません。

○社会小委員会委員長 特長的なものとして、それぞれ図などいろいろな部分がありますが、例えば、「帝国書院」については、50、51ページにタイムトリップというページがあります。このページでは、奈良時代について取り上げているのですが、前回のタイムトリップと比べることでこの時代の特色を考えるという学習が設定されています。そのような形で図を使う、イラストを使うというところにおいては特長が見られると思います。

また、「日本文教出版」についても、例えば、175ページをご覧いただければ分かる通り、時代の展開について説明するときに、図、イラストをうまく使いながら説明するような課題が設定されています。

○伊達義務教育担当係長 「帝国書院」のタイムトラベルの50、51ページをご覧ください。章の初めのページです。この章の初めのページは、前の章の同じようなイラストがありますので、前の時代と比較して、次の時代はどんな勉強をするのかということイメージする内容になっています。

もう一つ付け加えて特長があるのは、この章が終わった後にどういうまとめをするのかということになります。84ページ、85ページをご覧ください。こちらがまとめのページになりますが、84ページの左下に、タイムトラベルをもう一度眺めようというところがあり、学習した内容を踏まえて、一旦、導入部分に戻る構成になっているのが「帝国書院」の1つの特長だと思います。

「東京書籍」の95ページをご覧ください。

こちらはまとめのページですが、「比較表でまとめてみよう」や、前の時代と比べることで考えてみましょうなど、委員のおっしゃる比較というところを大切に構成となっています。

○長岡教育長 確認します。先ほど山中委員からお話があったとおり、歴史、地理、公民は、8者それぞれの教科書で、整合性やつながりが密接に整理されていると解釈してよろしいでしょうか。

○社会小委員会委員長 はい。間違いないと思います。

そのつながりについて、それぞれの分野をもっているもので、その関連付けをマークで示している会社もあります。ただ、それぞれの分野について記述している内容は、8者とも整理されていると思っています。

○長岡教育長 例えば、歴史、地理、公民がA、B、Cと分かれていても、大きな課題にはならない、無理がないと捉まえてよろしいのでしょうか。

○社会小委員会委員長 様々な考え方があると思いますが、基本的には、今回の調査研究項目についても、地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図ということで、それぞれの趣旨に沿って見えています。それぞれの発行者が違ったとしても、指導していく上では大きな差異はないと思います。

○長岡教育長 ほかにございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、調査研究観点AとBの観点から、Aは、学習指導要領を踏まえた採択参考資料から見た場合の特長、Bは、札幌市として設定する調査研究項目においてそれぞれ特長が顕著であった教科書、また、その理由についてお聞かせください。

○社会小委員会委員長 歴史的分野のうち、まず、調査研究の観点Aに関して、特長が顕著な教科用図書は「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」の3者です。

理由としては、「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」は、領土に関する内容の箇所がそれぞれ多くなっており、なおかつ内容も充実していました。

また、調査研究の観点Bに関しては、「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」の3者です。

理由としては、この3者とも、アイヌ民族の人権の取扱いや北海道の歴史の独自性が明確に示されています。さらに、「帝国書院」「東京書籍」では、問題解決的な学習においても特長が見られます。

○長岡教育長 観点Aからは「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」で、これは領土に関する内容の箇所が充実しているということでした。観点Bについては「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」で、アイヌ民族の人権の取扱い、北海道の歴史の独自性が明確に示されているためという理由でした。それぞれAとBは同じ会社ですが、3者に絞ったという説明がありました。

委員の皆さん、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、歴史については、「東京書籍」「帝国書院」「教育出版」の3者を選定の候補とします。8月7日(金)に引き続き審議を行って、1者を決定します。

続いて、公民です。

委員長から、公民の調査研究報告の説明を引き続きお願いします。

○社会小委員会委員長 公民的分野についてご説明します。

今回、調査対象となったのは、「東京書籍」「教育出版」「清水書院」「帝国書院」「日本文教出版」「自由社」「育鵬社」の7点の教科書です。

初めに、調査研究の観点Aである道教委が作成した採択参考資料を基礎資料とした調査研究内容を報告します。

採択参考資料の公民1ページをご覧ください。

公民的分野の目標について書かれています。

具体的な要点として、習得した概念を活用して諸事象の意義を解釈させたり事象間の関連を説明させたりすること、自分の考えを論述させたり議論などを通してお互いの考えを深めさせたりすることなどが示されています。

採択参考資料の公民2ページから34ページまで調査研究結果を示しています。

そのうち、公民の10ページをご覧くださいなのですが、様式4⑤自然災害及び防災に関する内容を取り上げているページ数、様式4⑨自ら進んで学習したり、調べたりするなど主体的な学習を促す内容を取り上げているページ数で特長が見られました。

まず、様式4⑤自然災害及び防災に関する内容を取り上げているページ数についてですが、採択参考資料の社の公民21、22ページも併せてご覧ください。

「教育出版」では、合計11ページとなっており、東日本大震災について本文2ページで大きく取扱い、大震災とその後の生き方について考えることが可能な内容となっています。また、画面をご覧くださいなのですが、「帝国書院」では、多くの写真や事例を取り上げ、防災という視点からのまちづくりについ

て考えることが可能な内容となっており、合計13ページと最もページ数が多くなっています。

次に、様式4⑨自ら進んで学習したり、調べたりするなど主体的な学習を促す内容を取り上げているページ数についてです。先ほどの資料の公民10ページをご覧ください。

そこに書かれているとおり、「東京書籍」が深めよう、鉛筆マークなど、特設ページやコラムなどが多く設定されており、111ページとページ数が多くなっています。

調査研究の観点Bである札幌市として設定する調査研究項目について報告します。報告書の社31ページをご覧ください。

公民的分野は、合計8項目について調査しました。そのうち、2の(1)社会参画の視点を取り入れた学習の取扱い、3の(1)アイヌ民族の人権の取扱い、4の(2)問題解決的な学習の取扱いについて特長が見られました。

まず、2の(1)社会参画の視点を取り入れた学習の取扱いについてです。

報告書の社34ページをご覧ください。

「東京書籍」の114ページ、115ページをご覧ください。

「X市の市長選挙に立候補しよう」という特設ページです。このほか「だれを市長に選ぶべき？」など、「東京書籍」では、「対立と合意」「効率と公正」の見方や考え方を活用して、社会参画について考える特集ページやコラムが複数設定されているという特長が見られました。

また、「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」では、自分たちの政治参加について具体的に考察する学習として特設ページが設定されています。

次に、3の(1)アイヌ民族の人権の取扱いについてです。

報告書の社35ページをご覧ください。

「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「日本文教出版」では、アイヌ文化振興法の制定やアイヌ民族を先住民族とすることを求める決議の記載の後に、これから目指していくべきことや、解決していくべき課題が問題提起されており、アイヌ民族の人権を尊重する態度を育むことが可能な内容となっています。

特に、「東京書籍」では、特設ページのアイヌ民族と先住民族の権利の学習を通して、先住民族の権利について、アイヌ民族をめぐる動きとオーストラリアの先住民族をめぐる動きを比較しながら考察できるようになっており、その他の資料も関連付けながら、アイヌ民族の人権に対する課題や差別の撤廃への動きを把握していけるという特長が見られました。

最後に、4の(2)問題解決的な学習の取扱いについてです。報告書の社44、45ページをご覧ください。

各者とも、毎時間の問いかけや課題が示され、問題解決的な学習を行うこと

が可能な構成となっています。さらに、「東京書籍」「帝国書院」では、各章の導入部と章末に同じ内容の学習課題が設定されており、学習課題について連続性を持ちながら分析、考察することにより、章の学習を通して、何を学び、どのような力を身につけたかを実感することが可能な構成となっています。

具体的には、「東京書籍」の34、35ページをご覧ください。

ここは、個人の尊重と日本国憲法の章の導入として、各カードの違いがあつてよい違いなのか、あつてはいけない違いなのかを考える「ちがいのちがい」という特設ページとなっています。

68、69ページをご覧いただきたいのですが、こちらは、この章のまとめのページとなります。「ちがいのちがいを追究しよう」というタイトルのもと、この章の学習内容を踏まえて、再度、「ちがいのちがい」を振り返る構成となっています。

次に、「帝国書院」の30、31ページをご覧ください。

こちらは、章の導入部分です。道路拡張について、病院建設についてという2つの視点から、市長候補者に投票するという内容になっています。

また、102ページをご覧ください。

章のまとめとして、再度、この課題について振り返る構成となっています。

最後に、「教育出版」の35ページをご覧ください。

各章の導入部にある章のねらいから、章全体の学習課題や学習内容を大きく捉えることができるようになっていきます。また、72ページをご覧いただきたいのですが、学習のまとめとして、既習事項をもとにして説明したり、意見交換をしたりすることが可能な構成となっています。

以上で、公民的分野の説明を終わります。

○長岡教育長 今の説明に対して、ご質問等がありましたらお願いします。

○山中委員 観点Bに関して、札幌らしい特色ある学校教育の推進についてご説明がなかったのですが、各者ともあまり違いはないという趣旨ですか。もし違いがあるのでしたら、少し具体的にご説明いただきたいと思います。

もう1点は、4の思考力・判断力・表現力等を培う言語活動、問題解決的な学習の充実の中の（1）資料の取扱いについて、資料は、正直に言って、体験的にあまりおもしろくないというのが私個人の認識です。そう思う方が多いのではないかと思います。資料に興味をもって読んでもらえるような工夫について特長があるかどうか、その辺りを教えてください。

○社会小委員会委員長 2点あったと思います。

最初は、環境の取扱いについてという札幌市の研究報告についてだと思えますが、社の32ページをご覧ください。

8者も、公民的分野の最後の章に持続可能な社会を形成するという視点から、環境問題について考察することが可能な探究学習が設定されています。また、循環型社会の実現に向けた取組も紹介されています。

さらに、環境保全の取組や地球環境・エネルギー問題の学習を取り上げ、かつ、考察したことを自分の言葉で表現するという学習活動では、「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「日本文教出版」となっています。

○伊達義務教育担当係長 引き続き、資料の取扱いについてです。

答申の42ページをご覧ください。

それぞれ特設ということで、例えば、「東京書籍」でしたら、「公民にアクセス」や「深めよう」というコーナーを設定しております。ほかの者につきましても、このようなコーナーを各自設定しており、それぞれの課題について、スポットを当てるような形で取り上げているところです。

そうしたところでは、特に差異が見られるということはありませんでした。

○池田（官）委員 問題解決的な学習に関連してですが、「教育出版」の6ページに「新聞を活用しよう」というページがあります。これに類するような、身近な生活の中でいろいろな問題、課題を見つけて、それを学んでいこうということに関連してくると思うのですが、このように新聞を取り上げているのはほかの発行者ではいかがでしょうか。

○伊達義務教育担当係長 委員がおっしゃるように、新聞についての見方は、社会で起こっている内容についてタイムリーに取り上げるということです。特に、公民的分野では、多面的、多角的に判断していくことになると思いますので、非常に重要なところではあります。

今ご指摘の「教育出版」の新聞の取り上げ方などについては、例えば、「東京書籍」の100ページをご覧ください。

新聞の見方ということではありませんが、こういう形で新聞を取り上げることにより子どもたちの興味を喚起するとともに、新聞を見て社会の情勢を把握することは大切ですよというところを促すような部分は見られるかと思えます。

○山中委員 関連して、「東京書籍」は、新聞の扱ただけではなく、インターネットのことも書いています。インターネットのことについて、ほかの者も扱っているのでしょうか。

○伊達義務教育担当係長 「東京書籍」の252ページをご覧ください。

ここに、よりよい社会を目指してということ、終章となっていますが、こちらについては、中学校3年間の社会科のまとめということ、探究的な学習を行うことになっています。その中においては、社会で起こっている様々な課題について、自分でどのような解決をしていったらよいのかということ进行分析しながら、発表したり話し合いをして深めていく内容になっています。その中の調べ学習の中に、1つのツールとしてインターネットの取扱いはあろうかと思えます。

○山中委員 ほかの者はどうですか。

○伊達義務教育担当係長 こちらの章だけではなく、地理的分野も、調べ学習で調査学習を進めていますので、そうした部分では、インターネットを使った場合の留意点などについて授業の中で触れているところです。公民的分野での調査研究の中では、特に、インターネットという話は出ていませんでした。

○社会小委員会委員長 別の視点でお話ししますが、先ほど保健体育のところでありましたが、ネット社会における子どもたちを取り巻く環境の部分の子どもの人権についてというところで使い方等の危険性に触れている教科書会社もありました。

○阿部委員 問題解決的な学習の取扱いですが、まず、問題を発見していくということ、それを解決していくということが必要になってくるので、ある程度のストーリー性が非常に必要になっていくと思います。その辺りで特長的なところがありましたらお願いします。

○伊達義務教育担当係長 公民的分野では、どの教科書もそうですが、最初に、公民的な概念ということで、「対立と合意」、合意形成を生むための「効率と公正」という視点を具体的な事例をもとにして学習することになっています。

その概念をどのように使っていくかということが1つの大きな視点になっています。「東京書籍」で言えば、「ちがいのちがい」というものが先ほどあったと思いますが、68ページをご覧ください。

右上に「効率と公正」というマークがついております。こういう形で思考、判断を広げることになりますが、自分で考える、そして、他者と意見交流しながら考えるということ、そうした視点として「効率と公正」を盛り込む、そうした手がかりが教科書の中で教材としてあって、そういうことができる構成に

なっているということが言えるかと思います。

「帝国書院」31ページをご覧ください。

「学習の前に」ということで、絵を見ながら、この単元でどういうことを学習していくのかということ、問題解決の導入部分で取扱います。そうした中で、31ページの上の文章の中に、「合意をつくり」という言葉があります。つまり、合意形成することが大切です。そのためにはどうしたらよいかということ、これから勉強していきますという内容があり、この章で勉強して、最終的に102ページ左下にあるように、学習した段階で一旦振り出しに戻って、学習の前を振り返ってみましょうという形で、最初にあった自分の学びと、学習を通してプラスアルファされた学びを積み上げていくように振り返ることができるようになっています。

○池田（官）委員 今の質問に関連して、「東京書籍」と「帝国書院」のご紹介をいただきましたが、例えば、「教育出版」で、「効率と公正」「対立と合意」ということを直接的に扱っているところをご紹介いただければと思います。

○伊達義務教育担当係長 「東京書籍」や「帝国書院」と同じ構成の者はありません。ただ、対立と合意形成というところで、教室で何度か取り扱って、これが合意形成に必要なことです、効率と公正の視点をもってやりましょうというところは調査項目の中では特に意見はなかったです。

○長岡教育長 「公民」というぐらいですから、公民権について、例えば、今、選挙権も20歳から18歳になろうとしています、権利の行使は非常に重要なことであって、行使しなければいけないとは思いますが。

一方、行使については負担が伴います。例えば、今、どこの自治体でも財政難で、道路も学校も橋も全てできればよいですが、そういう財政的な余裕がありません。一方、納税の義務があって、その納税でも賄い切れない施設整備という問題があります。

公民の教科書の中でも、負担について、子どもたちに、権利行使、人権の尊重という観点と全く裏腹の、それに伴う痛みが書かれている特長のある教科書があればお教えいただきたいと思います。

もう一つは、今、安全が脅かされるという危機がありまして、いろいろな観点から国際紛争が起きています。例えば、その原因として南北問題があることや貧富の差があること、そういう切り口を具体的に取り上げているような教科書があればお教えいただきたいと思います。

○伊達義務教育担当係長 結論から申しますと、痛みについては、各者で取り上げています。例えば、少子高齢化と財政について、少子高齢化が進むことによって、いわゆる一人ひとりの負担が多くなっていくことを1人に何人が乗っかっているかというような図であらわすなど、どの教科書もそういう形で痛みの部分にも触れています。

それから、国際関係についても、公民的分野の最後では国際連合などについても学ぶことになるのですが、これも、特にこの教科書がというところではありません。ただ、構成上で言うと、先ほど「ちがいのちがい」という構成がありました。国際情勢の構成でも同じようになっています。最初の段階で出てきた課題を最後にもう一度振り返るという構成になっています。ですので、内容的には変わりはありませんが、取り上げ方については各者で違いが出てくると思います。

○長岡教育長 ほかによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、観点Aの学習指導要領を踏まえた採択参考資料から見た場合の特長が顕著な教科書、その理由、それから、観点Bの札幌として設定する調査研究項目において特長が顕著であった教科書、その理由、それぞれお聞かせください。

○社会小委員会委員長 それでは、公民的分野について、まず、調査研究の観点Aに関して特長が顕著な教科用図書は「東京書籍」「帝国書院」の2者です。

理由としては、先ほどご説明したとおり「東京書籍」は、社会参画という視点から防災を取り上げており、自ら進んで学習したり調べたりするなど、主体的な学習を促す内容を取り上げている箇所が多く、内容も充実しています。また、「帝国書院」については、自然災害及び防災に関する内容を取り上げている箇所が最も多く、内容も充実しています。

調査研究の観点Bに関しては、「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」の3者です。

理由として、3者とも問題解決的な学習の取扱いや社会参画の視点を取り入れた学習の取扱いに特長が見られるとともに、アイヌ民族の人権について、これからの課題についても掲載されています。

○長岡教育長 観点Aでは、「東京書籍」と「帝国書院」が、防災の観点から

取り上げた工夫が見られるということ、主体的な学習を多く取り上げているということでした。それから、観点Bについては、「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」は、いずれも問題解決的な学習の取扱いを多く取り扱っている、それから、3者ともアイヌに関するこれからの課題という表記があったという説明がありました。これについてご意見はありますか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 7者について、それぞれの委員のご質問や、委員会からの特長のある教科書の報告ということで、「東京書籍」「帝国書院」「教育出版」という名前が挙がっています。これは、この3者で絞り込みができるかと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、今申し上げた3者を選定候補としたいと存じます。また、8月7日(金)に1者を決定します。

続きまして、地図についての説明をよろしくお願いします。

○社会小委員会委員長 地図についてご説明します。

今回、調査対象となったのは、新たに文部科学省の検定を経た教科書の発行者から送付された「東京書籍」「帝国書院」の2点の教科書です。

初めに、調査研究の観点Aである道教委が作成した採択参考資料を基礎資料とした調査研究内容を報告します。

採択参考資料の地図2ページから地図16ページまで調査研究結果を示しています。そのうち、地図の5ページをご覧いただきたいのですが、様式4④伝統や文化に関する内容を取り上げているページ数、様式4⑥自然災害及び防災に関する内容を取り上げているページ数、同じく、⑩自ら進んで学習したり、調べたりするなど主体的な学習を促す内容を取り上げているページ数で特長が見られました。

まず、様式4④伝統や文化に関する内容を取り上げているページ数についてです。採択参考資料の地図11ページも併せてご覧ください。

「東京書籍」は、世界の祭りや日本各地の郷土料理など、15ページとなっています。

「帝国書院」は、世界の住居、衣装、食事や伝統的なまち並みの保存など、10ページとなっています。

次に、様式4⑥自然災害及び防災に関する内容を取り上げているページ数についてです。地図12ページも併せてご覧ください。

「東京書籍」は、日本の主な気象災害や東日本大震災による被害など、6ページとなっています。「帝国書院」は、日本の災害と防災や東日本大震災の被害など、10ページとなっています。防災については、コラムを設けて紹介しています。

最後に、様式4⑩自ら進んで学習したり、調べたりするなど主体的な学習を促す内容を取り上げているページ数についてです。

資料は、地図5ページにお戻りください。

「東京書籍」は、「ジャンプ」や「キャラクターの吹き出し」など、53ページです。

「帝国書院」は、「やってみよう」「地図を見る目」など、77ページです。

続いて、調査研究の観点Bである札幌市として設定する調査研究項目について報告します。報告書の社46ページをご覧ください。

地図は、合計2項目について調査し、それぞれについて特長が見られました。

まず、1(1)地域社会の社会的事象に関わる教材の取扱いについてです。報告書の社47ページをご覧ください。

まず、「東京書籍」の129、130ページをご覧ください。

北海道地方の基本資料として、地勢、降水量、人口密度、工業と農業の主題図、また、テーマ資料として、アイヌ語地名、気象、地形と自然災害、漁業が掲載されており、身近な地域への多角的な関心を高めることが可能な内容となっています。

「帝国書院」の133ページから138ページをご覧ください。

北海道地方の基本資料として、十勝平野の畑作・根釧台地の酪農地の鳥瞰図、釧路湿原の鳥瞰図、自然産業・開拓の歴史とアイヌ語地名・国境の変遷をテーマにした主題図が掲載されており、多くの資料から身近な地域への関心を高め、地域の社会的事象を理解することが可能な内容となっています。

さらに、「帝国書院」では、400万分の1の日本全図とともに、知床半島から見た国後島の写真が掲載されており、北方領土に関する知識を高めると同時に、日本の中の北海道地方を俯瞰しやすい特長が見られました。

次に、2(1)資料の取扱いについてです。社48ページになります。

「東京書籍」では、世界と日本の順で一般図と基本資料、テーマ資料が交互に掲載され、一般図で押さえた基本的事項をもとにした発展的学習が可能な内容となっています。

「帝国書院」では、世界の諸地域において、資料図として大判の鳥瞰図が掲載し、視覚的に地域の特色を捉え、関心を高めることが可能な内容となってい

ます。

以上で、地図の説明を終わります。

○長岡教育長 質問、ご意見はございますか。

○臼井委員 中学校1年生で地理と歴史を勉強します。歴史分野で教わる地名や主な出来事があった場所の勉強を地図帳を使ってするという、ある種の利便性を考えたものは何かありますか。

○工藤企画担当係長 両者とも、歴史的分野でも活用できるようにということで、史跡などが掲載されています。例えば、「東京書籍」の122ページですが、函館付近をご覧ください。

函館と書かれたところの下に日米和親条約で開港や五稜郭跡というものが書かれて歴史的分野でも使うことが可能な構成となっています。

同じところを「帝国書院」でも比較して見てみたいと思いますが、132ページの函館のところをご覧くださいますと、日米和親条約により開港ということに加えて、ペリー上陸地などと書いてあります。五稜郭跡というものが同じようにあたり、「帝国書院」は、さらに、日本初の洋式の城というコメントが書かれていたり、歴史的分野でも活用可能な内容となっています。

○池田（官）委員 領土に関する取扱いの違いは両者でありますか。

○工藤企画担当係長 領土については2者とも掲載されていて、「帝国書院」では、全体として日本の領土、領海がここで大きく示されているのと、左上の175ページと書いたところに立体的な形での領土や領空や領海や公海の模式図が書かれているのが特長で、その下に南端や東端などの島の様子が描かれているという特色があります。

同じような内容は「東京書籍」でもあり、182ページ、183ページに似たようなものが描かれています。特色としては、「東京書籍」の方がどちらかという写真が大きく掲載されているかと思います。

○長岡教育長 地図の見やすさという観点からは、そんなに大差はないのでしょうか。

○工藤企画担当係長 いずれの者も、カラーバリアフリー、カラーユニバーサルデザイン、全ての生徒の色覚特性に適應するようなデザインという形で工夫

されているものと考えています。

○長岡教育長 1点だけ気になるのは、鳥瞰図の扱いが全く違います。例えば、北アメリカ州について、「東京書籍」で言うと61ページ、「帝国書院」で言うと63ページの鳥瞰図が全く違っていています。どちらが見やすいか、これは好みの問題ですが、おもしろいと思います。地図自体、東北地方や北海道を見ても、見やすさ、見づらさにそれほど差はありませんが、この鳥瞰図だけは2者の特色ですね。

○工藤企画担当係長 色の使い方、「帝国書院」の方がより立体感が出ているという特色があると思います。鳥瞰図としての情報量も、2者を比較してご覧いただければ、フロリダ半島でロケットが飛んでいるなど、両社で違いがあって、それぞれの特色かと考えています。

○阿部委員 各ページについているインデックスですが、「東京書籍」は、右から開いても左から開いてもどちらのページにもついています。先生が何ページを開いてと言うのでそんなに大きな違いではないかもしれませんが、利便性としては、子どもの視線で言うと、どちらから開いても分かるということが特長の1つだと思います。それは、授業の中ではそれほど影響がないのでしょうか。

○工藤企画担当係長 大きな違いではないかもしれませんが、小学校のときから社会科や地理的分野が苦手なお子さんにとっては、そういった意味で若干の使いやすさがあるかもしれません。

○長岡教育長 ほかによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 これについては、対象となる教科書が「東京書籍」と「帝国書院」の2者ですので、一旦は2者とも選定の候補として、8月7日(金)に引き続き審議を行って1者に決定することになりますが、それでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、そのようにします。

技術・家庭の審議を行います。

その前に、私から小委員会委員長に確認します。

特定の組織や団体あるいは会社等から、影響力の行使または圧力等はありませんでしたか。

○技術・家庭小委員会委員長 ありません。

○長岡教育長 それでは、技術・家庭小委員会の委員長から、調査研究報告の説明をお願いします。

○技術・家庭小委員会委員長 技術・家庭については、技術分野と家庭分野の2種目があります。

今回、調査研究の対象となったのは、2種目とも「東京書籍」「教育図書」「開隆堂」の3者3点ずつ、合計6点の教科書です。

技術・家庭小委員会において、教育委員会が定めた平成28年度から使用する中学校用教科用図書の調査研究の基本方針に基づき、公正・中立な立場から具体的な調査研究を進めてまいりましたので、ご報告します。

まず、技術分野からご説明します。

調査研究の観点Aである北海道教育委員会が作成した採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明します。

採択参考資料の技術1ページをご覧ください。

技術分野では、学習指導要領において、技術と社会や環境との関わりについて理解を深め、技術を適切に評価し、活用する能力と態度などを育成することが目標とされています。

次に、技術2ページの様式2から技術13ページの様式4、別記までについてです。

様式4うち、調査項目①、4つの内容、巻頭、巻末のページ数と、調査項目⑥学習への興味・関心を高めることができるような資料や北海道の素材を活用している資料の箇所数については、各教科書の特長が見られました。

それでは、技術の6ページをご覧ください。

まず、調査項目①、4つの内容、巻頭、巻末のページ数についてです。

4つの内容とは、学習指導要領に示されている材料と加工、エネルギー変換、生物育成、情報のことです。このうち、生物育成については、「教育図書」の56ページをご覧ください。そこに、特に動物や水産生物を扱った動物や魚を飼育、養殖する技術を多く取り扱っているという特長が見られました。

次に、⑥の学習への興味・関心を高めることができるような資料の箇所数に

ついてですが、特に、「開隆堂出版」は、107カ所にわたり資料を豊富に掲載しており、これは参考という部分ですが、そういう特長が見られています。

続きまして、調査研究の観点Bの札幌市として設定する調査研究項目について説明します。

答申の技2ページをご覧ください。

技術分野では、調査研究項目として計4項目についての調査研究を実施しましたが、そのうち、2の(1)問題解決的な学習の充実についての取扱いと3の(1)技術の適切な評価・活用についての取扱いについては、各者の特長が見られましたので、ご説明します。

まず、2の(1)問題解決的な学習の充実についての取扱いについてです。答申の技4ページをご覧ください。

ここでは、問題解決的な学習を充実させ、学ぶ意欲を高めることが可能な内容となっているかという観点で調査研究を行いました。そのうち、「東京書籍」と「開隆堂出版」において顕著な特長が見られました。

「東京書籍」は、実習の初めに、問題の発見として、「キクの福助作りを行い、文化祭の時期に開花させたいな」など、中学生にとって身近な問題例が掲載され、実習を行う目的などを明確にし、学ぶ意欲を高めた上で実習に入ることが可能な構成となっています。加えて、実習について、設計などの計画、製作などの実行、評価・改善といった基本的な流れが統一的に示されており、この流れを繰り返し経験することで問題解決への意欲を高めることが可能な内容となっています。

次に、「開隆堂出版」28ページの左下の「?欄」をご覧ください。

ここには、「わりばしが、刃物を使わなくても簡単に割れるのはどうしてだろうか」など、生徒が木材の構造に着目して思考することを促すような小課題が示されています。これらの小課題が教科書全体にわたって掲載され、知識を活用し、自ら問題を解決する学習を充実させることが可能な構成となっていることが特長となっています。

同じく「開隆堂出版」の58ページです。

ここにあるように、技能を学習する場面において、生徒のつまずきの原因となる部分に写真の中に矢印など入れ丁寧に示すことで、学ぶ意欲を引き出しながら技能の習得を図ることが可能な内容となっています。

最後に、3の(1)技術の適切な評価・活用についての取扱いについてご説明します。技5ページをご覧ください。

ここでは、技術を客観的に判断、評価し、活用しようとする態度を育むことが可能な内容になっているかを観点として調査研究を行い、各者とも特長が見られたので、ご説明します。

「東京書籍」の97ページをご覧ください。ここには、各発電方式の特長と課題を掲載しています。

次に、211ページから213ページをお開きください。

同様に、情報ネットワーク技術についても、プラス面とマイナス面について考える構成となっています。このように、技術の長所と短所を比較して考える学習を進めることで、技術を適切に評価、判断し、活用する能力を育むことが可能な内容となっています。

続いて、「教育図書」の89ページをご覧ください。学校意見にもありましたが、スカイツリーに使われている最新の技術が掲載されています。

同じく、143ページをご覧ください。二酸化炭素回収装置が掲載されるなど、随所に技術の未来、環境問題などを解決する新しい技術を掲載していることが特長となっています。

次に、「開隆堂出版」の244ページをご覧ください。

巻末に、「進んで技術を評価し生活をよりよくする～技術分野の出口～」が掲載されており、3年間の学習をもとにして、社会、環境、経済の各側面から適切に技術を評価・活用する能力を育むこと、未来の技術のあり方について考え、積極的に関わろうとする態度を育むことなどが可能な内容となっています。

次に、174ページをご覧ください。

ここでは、各学習内容の最後に「生活に生かそう」を掲載し、例えば、生物育成に関する技術についてのニュースや情報に関心を持ち、それら社会や環境に与える影響について情報を集め、評価してみようなど、生活の中で技術がどのように活用されているかなどを考えるよう促していることも特長となっています。

以上で、技術分野の説明を終わります。

続いて、家庭分野についてご説明します。

まず、調査研究の観点Aの採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果について説明します。

採択参考資料の家庭1ページをご覧ください。

家庭分野では、学習指導要領において、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることが目標とされています。

次に、家庭2ページの様式2から家庭14ページの様式4の別記までについてです。

この中、様式4の調査項目⑥の北海道に関わりのある内容を取り上げている資料の箇所数と⑦の自ら進んで調べることができるような資料のページ数については、各教科書の特長が見られました。

家庭6ページをお開きください。

様式4の調査項目⑥の北海道に関わりのある内容を取り上げている資料の箇所数については、「東京書籍」が、北海道の素材を12カ所掲載し、資料として札幌市子育て支援総合センターを取り上げ、また、「開隆堂出版」が、10カ所掲載し、巻頭に札幌市の除雪ボランティア活動の写真を掲載していることが特長となっています。

次に、⑦の自ら進んで調べることができるような資料のページ数については、「開隆堂出版」で、課題、探究マークを示すなど、72カ所にわたり資料を掲載していることが特長となっています。

続いて、調査研究の観点Bの札幌市として設定する調査研究項目についてご説明します。答申の技7ページをご覧ください。

家庭分野においては、調査研究項目として、計3項目について調査研究を実施しましたが、そのうち、1の(1)の身近な環境との関わりについての取扱いと、2の(1)の問題解決的な学習の充実についての取扱いについて、各者の特長が見られたので、説明します。

まず、1の(1)の身近な環境との関わりについての取扱いについてご説明します。答申の技8ページをご覧ください。

ここでは、札幌の環境保全を目指して、生活の仕方を工夫し、実践していくことが可能な内容となっているかを観点として調査しました。

各者で特長が見られましたが、このうち、「教育図書」は、262ページにあるように、身近な消費生活と環境の学習で、家庭からのCO₂の排出量やごみの量や水の使われ方など、多くの資料や実践例を取り上げ、豊富な知識を幅広く得ることが可能な内容となっています。

続いて、「開隆堂出版」の54ページをご覧ください。

ここにあるように、持続可能な社会をつくるという学習が家族と家庭と子どもの成長の学習の後に位置付けられています。

続いて、136ページですが、食生活の学習の後に同じような形で出ています。それから、164ページですが、住生活の学習の後に同様のことが出ています。さらに、206ページですが、衣生活の学習の後にも位置付けられています。このように、人との関わりを大切にしながら、環境保全に取り組むことを促す内容となっています。

239ページです。ここでは、3Rのみではなく、「R e f u s e 過剰なゴミ等になるものは断る」や、「R e p a i r 修理して使う」を加えた5Rの取組を掲載するなど、札幌市が推進している環境行動と結び付けて学習することが可能な内容となっています。同様の内容が207ページにもあります。

最後に、2の(1)の問題解決的な学習の充実についての取扱いについてご

説明します。答申の技9ページをご覧ください。

ここでは、問題解決的な学習を充実させ、学ぶ意欲を高めることが可能な内容となっているかを観点として調査研究を行いました。 「東京書籍」と「開隆堂出版」で顕著な特長が見られました。

「東京書籍」は、教科書の初めに問題解決をする道筋が示されており、その道筋を活用して実践例が示されています。

252ページですが、問題解決への意欲を高めることが可能な構成となっています。この点は、学校意見にも同様の意見がありました。

52ページから57ページまでの間になりますが、計量する、洗う、切る、加熱するなどの基礎技能がまとめて掲載されており、調理実習の中でそれらを活用して自ら問題解決することを可能とする構成となっています。

次に「開隆堂出版」ですが、250ページをご覧ください。

生活の課題と実践において、課題学習の進め方の手順、衣食住の豊富な課題例が掲載され、学ぶ意欲を高めつつ、問題解決的な学習を進めることが可能な内容となっています。

続いて41ページ、各章の学習項目ごとに、幼児の体や心の発達と生活の特長が理解できたかなど振り返りが設定されて、さらに、発展として、56ページになりますが、新しい課題を投げかけ、自ら問題を見つけて解決しようとする意欲を高めることが可能な内容となっています。

以上、技術・家庭科について説明しました。

○長岡教育長 それでは、各委員の皆様から、今の説明等についてのご質問がありましたらお願いします。

○臼井委員 まず、技術科で、工作機械等の使い方のところで、安全への配慮について、3つの発行者で特長の違いはありますか。

○技術・家庭小委員会委員長 安全については、本教科では大事なことから、それぞれ挙げられています。

「東京書籍」には安全というマークがついています。これは、工作機械だけではなく、各所につけられています。もちろん、工具に関しても、危険なものもありますし、場合によっては材料に関しても切り口が危険な場合もありますので、そういう部分には安全マークがついています。それから、「開隆堂出版」に関しても安全マークが入っています。「教育図書」も安全マークが入っています。それぞれで注意喚起はされていると思います。

○白井委員 指導上は3者に違いはあまりないという感じでしょうか。

○岩淵研修担当係長 安全面については、今説明がありましたように、例えば、ものづくりにおいては、手を切らないようになど、基本的な部分に大きな差はなく、それぞれの教科書に盛り込まれていると思います。教科書に安全マークをつけながら注意喚起を促すという構成になっています。

ただ、エネルギー変換の内容、これは製作とは少し違う部分の安全ですが、電気機器の扱い方、使用についての安全は指導しなければなりませんので、そこには特長が見られると思います。

例えば、「東京書籍」の107ページをご覧ください。

これは、電気機器の感電、漏電についての安全ということで掲載されているページですが、例えば、「東京書籍」であれば、こういう場合は正しい使い方ということで、アース等をつけて感電を防ぐことができますが、アースをつけないとこのように感電する、アースをつけると機器に問題があっても事故を防ぐことができるという部分で安全に触れられているところが特長かと思います。

同様に、「開隆堂出版」についてご説明したいと思います。「開隆堂出版」の117ページの下をご覧ください。

こちらも、同じように、このような状態で感電する可能性がありますということで注意喚起を促すような掲載があります。「開隆堂出版」の特長としては、実際の生活であり得る場面を図であらわして、こうすると火災が起きる可能性があるなど、具体的な場面として掲載しているところに特長があると考えています。

○阿部委員 「開隆堂出版」は、どのページにも右上に写真が小さく載っていて、これにはどんな意味合いがあるのかというのがまず1点です。

それから、どちらのページにもリンクが要所要所に出てきていて、ほかのページとの関連性をわかりやすく示していると思いますが、それはほかの教科書にもあるのかどうか、この2点をお伺いできればと思います。

○技術・家庭小委員会委員長 リンクに関しては、「開隆堂出版」にもありますし、「東京書籍」にもあります。これは、ほかの項目に関してのリンクもありますし、家庭科分野とのリンクもあります。他教科にもあり、例えば道徳との関連などもあります。

それから、最初にご指摘のセンタポンチやノギスや電気ヒューズなどに関しては、それぞれの分野に関わる工具であったり、パーツであったり、そういうものを並べていますが、これは、生徒の興味・関心を引きつける部分と、全て

の道具や工具あるいはパーツに関しても全部網羅できる内容になっており、補足ではありませんが、参考資料ということで載せられているかと思います。

○岩淵研修担当係長 ほかの教科書にもそのようなものがあるかというご質問ですが、「東京書籍」においては、技術分野の右下を見ていただきたいと思います。技術分野の全てのページの右下に、スカイツリーがパラパラ漫画のように少しずつ浮き上がってきます。これも、日本が誇る東京スカイツリーがこのようにでき上がっていくという意味で興味・関心を引くという工夫が盛り込まれています。

○池田（官）委員 技術に関してですが、札幌市の教育でICTに力を入れていると思いますが、各者で何か特長はありますか。

○技術・家庭小委員会委員長 特長的な部分はいろいろありますが、情報を適切に活用して、適切にプレゼンテーションを行うための能力を育むということについては、例えば「東京書籍」の場合は、219ページをご覧ください。

「デジタル作品の特徴を考えよう」というところで、文字、音声、静止画、動画を使うときのプラス面とマイナス面を一覧として、それを押さえ、それを基本として実習や製作へ進むようにしている流れになっています。それから、222ページから226ページまでの間がデジタル作品の設計、製作、使用ということで、最終的には228ページが締めということになっています。これらデジタル作品の製作においては、「東京書籍」が、個人情報や著作権など情報モラルについて触れながら進められているところにも特長があると思います。その部分は224ページになります。

「教育図書」224ページです。「教育図書」の場合は、文書作成、表計算、写真の加工、動画の編集、プレゼンテーション、ウェブページなどに分けて、それぞれの特長や操作方法等について、具体的にそれぞれ掲載しています。それから、220ページがレイアウトに関して、230ページもそうです。

「開隆堂出版」は、213ページからになります。「開隆堂出版」は、文字、音声、静止画、動画に分けて、それぞれ図や小課題を設定しながら、それぞれのメディアの特長や操作方法を掲載して製作に進むようになっています。これが213、214、215ページです。

また、実習例の中で、218ページに、「望ましいプレゼンテーションとは」が囲みになっていますが、219ページに製作するときの注意点などを入れて、1つ1つの実習例について具体的な注意点等を示しながら活用能力を高めようとしています。

○長岡教育長 技術6のページですが、技術も家庭も3者とも取り扱っている箇所数に違いはありませんが、1つだけ、様式4⑥の資料のところで、「開隆堂出版」が107とここだけずばぬけて多くなっています。資料が多いということは、解説がそれだけ丁寧ということで、特色があると見てもよろしいのですか。ページをめくっているだけだと、「開隆堂出版」だけが資料が特別多いとは見受けられません。

○岩淵研修担当係長 「開隆堂出版」の資料が採択参考資料で107とずばぬけて多くなっているということですが、「開隆堂出版」の26ページをご覧ください。

学習への興味・関心を高めることができるような資料ということで、「開隆堂出版」の場合は参考として囲みで子どもたちの興味・関心を高めるという意味で設定されています。31ページをご覧ください。ここにも参考がありますが、3Dプリンターなどのような参考を随所に入れて107となっています。

ただ、「東京書籍」や「教育図書」に少ないのは、「開隆堂出版」が参考としているものを本文の中に入れ込んでいる構成になっているためです。

○長岡教育長 「教育図書」の1ページ目を開くと国際宇宙ステーションが出ています。その後に人類の進化とともにということが出ていたり、新幹線が出ていたりということで、今、技術はこれだけ進歩して、宇宙ステーションまでこんな形でできているということで載っています。子どもたちに夢を与えて、将来に向かって自分たちもという気持ちを抱かせるべきだと思し、地道に木を削ってということから始めなければいけません、そういう面での見せ方の工夫が必要です。特に上手な見せ方の工夫があるところはありますか。

○技術・家庭小委員会委員長 各者それぞれに特長があると思います。見せ方にはそれぞれうま味があると思いますので、将来にわたってという部分もそうですし、歴史的な背景もそれぞれ押さえていますし、地域性もあります。好みの問題になってしまうのではないかと思います。

○岩淵研修担当係長 技術分野で大事なものは、技術を適切に評価・活用する能力です。夢を与えることや、実際に子どもたちがこれから技術をどう活用していくか、あり方をどう考えていくかという部分が狙いとしては非常に大事でして、それが学習指導要領にも盛り込まれています。そういう意味で、どの教科書にも含まれています。ただ、その能力を育む上での特長ということであれば、例えば、「東京書籍」の97ページをご覧ください。ただ、その能力を育む上での特長ということであれば、例えば、「東京書籍」の97ページをご覧ください。

ここでは、発電の仕組みということではいろいろなものが出ていますが、技術

を子どもたちが評価できるということで、発電の仕組みについて、それぞれのよい部分と課題を押さえる、その上で、これからエネルギーをどのように使っていけばよいのかという展開にもっていくことが可能ですので、そのような特長が見られると思っています。

「開隆堂出版」は、今のような成果と課題という表の形ではありませんが、それぞれの発電の仕組みを比較して出せるようにして、その上で、これから技術、エネルギーをどのように使っていけばよいのか、そこも含めて考えさせるという構成になっているかと思います。

同じく、「開隆堂出版」の135ページをご覧ください。今のような発電の仕組みを考えさせた上で、さらに、これからのエネルギーをどのように使っていけばよいのかというページが入れられています。

「教育図書」については、これからのエネルギーということで、このようにページが設定されております。

○池田（官）委員 「東京書籍」だけ家庭科も技術も版が大きくて、見たときには情報量が多くて見やすいという印象をもってしまうのですが、生徒の目線や教える先生たちの目線から見るとどうなるのでしょうか。

○技術・家庭小委員会委員長 これについては、小委員会の中でもいろいろな意見が出ました。実際に大きくその分スペースがあるので、図や表はそれだけ大きくなっています。その部分では評価されていました。

それから、実習が多い教科ですので、そのときに置くスペースをとるという意見も出ていました。

また、8回の小委員会で、毎回、6冊の教科書を持って歩くのは非常につらかったです。持っていただければ分かりますが、重さが明らかに違います。

参考までに、「東京書籍」の技術が650グラムぐらいあります。それから、家庭科が550グラムぐらいです。「教育図書」の技術も家庭科も大体550グラムぐらいです。「開隆堂出版」は、技術が450グラム、家庭科が500グラムで、そういう部分でのメリット、デメリットがあるので、一長一短だと思います。

○山中委員 ほかの教科書と比べても、形が違うことによる持ち運びのしにくさなどはあるのですか。

○技術・家庭小委員会委員長 生徒が日常使っているかばんに入らないということはないです。ただ、中学校には9教科あり、大体1日6時間平均ですので、負担はかなりあるかと思います。中学校は、教科書を置いて帰ってよいという

ことはほぼしていないと思います。

○長岡教育長 ほかにございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、技術・家庭は、それぞれの対象となる教科書が「東京書籍」「教育図書」「開隆堂出版」の3者です。それぞれ3者とも選定の候補として、8月7日(金)に引き続き審議を行って、それぞれ1者に決定するというにしたいと思えますけれども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、そのようにいたします。

これで協議第1号の本日の審議を終了します。

明後日、7月31日(金)は、中学校部会、中等教育学校前期課程部会の残り5つの小委員会と、高等学校部会、中等教育学校後期課程部会及び特別支援教育部会を対象として審議しますので、引き続きよろしくお願いします。

【閉 会】

○長岡教育長 以上をもちまして平成27年第17回教育委員会会議を終了します。

以 上